

早稻田學報

大正十一年 第三百三十三號 八月十日發行 每月一十日發行

目次

意見

記念大講堂の音響的考察
米國大學の校友會に就て

助教授
幹事

黒川兼三郎
難波理一郎

校報

工手學校生徒監督制——臨時休校——維持員會——學部長主任會——教員會——研究室員會
——高等學院教授會——學期試驗施行——本學期授業終了——科外講演——特別講義——維持員會推薦評議員重任——講師の異動——工手學校卒業式——圖書館報告——記念事業記事

校友會報

幹事會——常務委員會——大正五年クラス會——函館校友會——三重縣校友會——長崎縣校友會——青島校友會報

校友面影

評議員 篠原彌吉氏

校友動靜

中野登美雄氏の消息——羽田智證氏の長逝——業務異動——住所異動其の他

學會々合

高等學院英語科教授談話會——英文學會——經濟學會事業報告——政治學會十年度事業報告——雄辯會春季大會

校外部教育消息

地方出張講演

雜錄

記念事業に關して教職員に依頼——平沼理事の退院——田中理事の退院——故坂田博士の肖像額——中村志賀兩教授の送別會其の他

故總長大隈侯爵記念事業資金申込芳名

東京牛込

早稻田大學校友會

電話番五〇〇〇番

東京總局 八八九六番

意見

記念大講堂の音響的考察(其二)

助教授 黒川兼三郎

緒言

故總長記念事業として大講堂建設のこと、我が大學當局者によつて發表せられたるは我等の喜ぶ所にして、其の資金募集の成功を希ふと共に、之が完成の日の一日も速かならんことを望む者なり。

而して本文の筆者は其の當事者に非ず、亦專門を異にするが故に之が計畫の技術的内容は勿論其の概要をも全く知らざる者なれども、既に發表せる所によれば記念大講堂は全學園の學徒一萬餘を容るゝに足り、其の工費堂百萬圓なりと聞く。然るに筆者先年電話器其の部分研究に際し音響の問題に多大の興味を感じ、講堂、音樂館、劇場等の應用方面の研究に多少の注意をなせることあり。

其の結果、是等の建築設計に關しては其の座席千人以上或は時として遙に其れ以下の時と雖も、之が音響的に完全なるためには技術的に容易なるに似て甚だ然らざることを熟知するが故に、茲に大容量の建物、失敗の跡、過去の研究等にして筆者の眼に止まる二三を略述し、之を綜合

して我記念大講堂の設計に際し、特に音響的に注意すべき點並に特に研究を要すべき點を明かにし、技術方面に非ざる當事者の参考の一部となし、並に一般讀者に多少の興味を興ふるを得ば筆者の幸之に過ぎざるものとす。

尙當學報は世界の各地に散在する我が校友諸君に行き互るものなれば、幸に此の大講堂建設の事業に熱心にして各地の模範的大講堂、音樂館、劇場等の形、大さ構造の細部及び其の音響狀態の御報告を寄せらるゝあれば、筆者の喜ぶ所のみならず我が大講堂の完成に大なる貢獻となること疑もなく、技術的當事者亦満足すべきものと信するが故に専門以外のことなれども茲に記述することとせり。

我が記念大講堂

常に萬餘の學徒を擁する我が早稲田大學に於て故總長希望の一端たりし大講堂を其の記念事業として營むに當りては其の規模は勿論形大なるべく、從來各種式典に際し中央校庭に使用せし大天幕張の如き僅に早稲

田大學學生の一部を容るゝに過ぎざるを思へば、記念講堂の大きさは少くとも一萬人以上を容るゝに足るものたるべからず。尙從來の天幕張は不良なる天候の下に使用されず、時に式典の延期せられたるなどを思へば、野外式は構造容易なりと雖も採用すべきに非ず。故總長記念事業趣旨並に附屬によるも屋內式一萬人以上を容るゝものなるが如し。

嘗て斯くの如き規模の講堂を設けたる大學世界に類例なきが如しと雖も、學徒の數我が早稲田の如き又其の比なきが故に此の規模必ずしも大に過ぐとは云ふべからず。加之我が大東京は此の大會堂の一つも之無きが故に我が早稲田大學にして之を得ば、大學自身の使用に止まらず各種の大會場に當つれば東京市民の受くる利便大なるは勿論なるが故に敢て計畫を縮小するの要なきのみならず、こは當大學必要の或は最小限度ならん乎。

世界の類例

次に世界の各地に互り著名なる此の種建造物の瞥見せしは、其の數多くありと雖も探つて我が大講堂の範とするに足るもの甚だ稀なるが如し。歐米各國に於て「キリスト教會堂」には著名なる大建築物多くあり。然れども此の種の建物は其の構造莊麗を旨とし、建築美或は宗教上の莊嚴

さ等に於て模範的と云はるゝものを求め得べしと雖も、講堂として音響的に完全なるもの即ち演説等の多數の聴衆に明確に理解さるゝ、如き構造を有するもの甚だ稀にして或は絶無と云ふも過言に非ざるべきか。各國の議會議場を見るに或は音響的に良好なるものを得べしと雖も、其の容量甚だ少にして此の際の直接參考とはなり難し。

劇場に於て稍々大なる例を見出し得べし。然らば彼の世界に其の華麗を誇る「パリ」の「オペラ」は其の觀覽席僅かに二千人餘、又歐洲第一の大劇場と稱せらるゝ「ミラン」の「ラ・スカラ」と雖も三千六百人を容るゝのみなり。之に對し北米「シカゴ」の「オペトリウム」は五千人を容るゝと云へば遙に大ならしむも我講堂の計畫の半に過ぎず。

「ロンドン」の「ケンシントン」に其の雄姿を誇る彼の尨大なる國技館式の建物「アルバート・ホール」も其の座席は八千人なりと云ふ。尙國技館は稍々大にして一萬一千五百人を容るゝを得。

「ローマ」に遡べると否とに係らず、何人も彼の「コロセウム」の大は聞き及ぶ所にして「ローマ」と「コロセウム」とは其の存立を共にすと云はるゝも宜なり。實に觀光の客をして啞然たらしむるに足る。而して八萬七千人を容れたりと稱せらるゝも、

眞の座席は四萬乃至五萬が實數ならむとのことなり。「コロセウム」の一端を缺きたる如き馬蹄形の「ハーバード」大學「スタディアム」は「チャールス」河畔に泰然とし小山の如し。是が觀客に満たされし時の莊觀は尙筆者の記憶する所なるも、其の容員は二萬七千人なり。尙此の種運動競技場は「アデン」及び「ストックホルム」にも稍大なるものと云ふ。

嘗て大「ローマ」が其の盛時の富を舉げ奴隸の勞力を以て營める「コロセウム」の半とは云へ、北米の一大學が如何に盛なる運動競技のためとはいへ、易々として營むことを得たるは機械力の發達、建築材料の一大進歩に歸せざるべからず。然れども彼の大學は北米自身と共に發達せる可成に長き歴史を有す。

今早稲田大學は創立僅かに四十餘年にして「コロセウム」の五分の一「ハーバード」スタディアムの三分の一強を容れ而も野外式ならず有蓋の記念大講堂を建造せんとす。亦盛なりと謂ふを得べし。

尙其の費用の幾分を割かば同程度の野外式競技場をも併せ營むこと易々たるべきか。然れども前者は共に運動競技を見れば大分なりしが、此の構造果として講堂としての要件、即ち一人の演者の説く所を全聴衆が之を理解し得るが如き條件を満足すべきものとは

云ひ難し。勿論今日に於ては高聲電話の發達あれば一人の演説を數萬の聽衆に撒せしむること必ずしも不可能に非ざれども、之を有蓋の場内に使用して如何あるべきか、時として後に述ぶる如く困難に逢ひたる例あり。

是等建築物の其の儘の縮少にて屋根を著ひたるものにては聽衆の空間に於ける位置面白からず。又競技場或は野外劇場式とするも、一人當りの床床面は節約する能はざること勿論なり。故に大講堂に於ては普通劇場に行はる、如き階層を設くる必要あり。

有蓋講堂としての條件に適ひ其の容員一萬内外なるものに北米「ソルト、レーキ」市所在「モルモン」寺院あり。筆者曩に斯くの如き機を思はず警見の勞を厭ひたるを悔む者なれども、其の座席は八千而も悠に一萬二千人を容れ得と云ふ。其の形は「キリスト」教大會堂の如くト字架形ならず楕圓形にて長徑二百五十呎、短徑百五十呎、高さ七十呎にして或る部分に階層を有し其の音響狀態亦可良なりと云ふ。或は一部の範とするに足るべきか。

尤も楕圓は特別なる優點を有するが故に之を嫌む論者なきに非ず。

然し形の長方形なる其の隅を缺きたる如きは普通の小劇場には二千、三千の觀客を容る、ものには見る所

なれども、

別表の如く

一萬に近き

或は其れ以

上の場合に

は殆んど總

べて楕圓形

を採れるを

思へば、我

大講堂も楕

圓或は寧ろ

卵形を採る

べきか。少

くとも此の

形は考究に

値す。尙五

千人を容る

アルバート・ホール

モルモン寺院

シンホニ・ホール

ゲヴァンド・ハウス

ミシガン大學

ヒル紀念講堂

早稲田大學紀念講堂

イリノイ大學

アーモリー

具一

部

コロセウム

イリノイ大學

アーモリー

具一

部

イリノイ大學

(照 參 表 別)

ば之を避けたきものなり。此の條件は國技館式建物に於ては容易に實現し得べけれど、其の形講堂として望むべからず。演壇を中央に設けるとも、或は又一方に片寄するとも共に面白からず。加之「アルバート、ホール」の如き、後に述ぶが如く音の反響強く、之を防ぐため中央天井に重き四分の三噸に近き「キャラコ」幕を張ると云へば此の形は不可なるべし。

而して「モルモン」寺院の建築は今より六十餘年前にして、今の技術とは比すべくも非ず。現今中百數十呎、長さ之より大なる場合に場内無柱の構造可能なりと云ふに容易に其の例證を求むることを得。

例へば歐米各所の大停車場に見る如き構造あり。就中北米「ワシントン」の「ユニオン」停車場は其の待合室長さ二百二十呎、巾百三十呎にして場内無柱なり。又大戦の際北米諸所の大學に置かれたる學生軍事教練所の「アーモリー」は其の規模形大にして、例へば「イリノイ」大學に於けるものは其の形は長方形に、其の巾二百十二呎、長さ四百呎にして場内無柱、且つ其の屋根は薄錐形にして最高の高さ九十三呎なりと云ふ。

従つて之を「モルモン」寺院或は類似大の卵形又は普通劇場の形とするも、場内無柱となすこと鐵骨構造に於ては容易に之を作り得べし。

名	稱	所在地	容員	形	大	サ
コロセアム	ローマ	八萬七千人、四五萬人(座)	橢圓	長徑六百十五呎、短徑六百十呎、高サ百五十七呎		
スタディオン	アテン	五萬人	馬蹄形			
オリンピック競技場	ストツクホルム	三萬五千人	馬蹄形、端モ閉ズ			
ハーバードスタディウム	ケンブリツギ(米)	二萬七千人	馬蹄形			
大ユリゼアム	シカゴ	一萬三千人	長方形(?)			
モルモン寺院	ソルト、レーキ	一萬二千人(座)八千人	橢圓	長徑二百五十呎、短徑一百五十呎、高サ七十呎		千八百六十七年
國技館	東京	一萬一千五百人				
ロイヤル、アルバート、ホール	ロンドン	八千人	橢圓	長徑二百七十呎、短徑二百四十呎		千八百七十一年
記念アムファイセアター	アーリン(米)	五千五百人(座)數千人(立)	橢圓?	三萬四千平方呎		最近七十五萬弗
オデイトリウム	シカゴ	五千人				
ヒル記念講堂	ミシガン大學内	五千人	拋物線、ト角形、ノ混			
イリノイ大學アーモリーノ一部	イリノイ大學内	四千五百人	長方形	長サ二百十二呎、巾百二十四呎		
大オーザエ	クリスタルパレス内	四千人	半圓			
ラ、スカラ	ミラン	三千六百人				
シンホー、ル	ボストン	二千六百二十人	長方形	長サ三百三十呎、巾七十五呎、高サ六十呎		
オ、バ	パリ	二千六百六十人				千八百七十四年、百四十六磅
帝國劇場	東京	千六百三十人				

失敗の跡

「イー、エツチ、ケリー」博士は其の著建築音響學に於て、略圖を掲げ音響的缺陷を有する實例數種を擧ぐ。曰く其の當時工費二十五萬弗を費し二千人を容る或る大劇場に同氏の分類による音響的缺陷の總てを具へ全く失敗なりしと云ふ。而して是が音響的修繕に十萬弗を要すと。又曰く二千四百人入りの外の劇場は練瓦壁へ直塗りの仕上けにして、是れ亦完全なる失敗なりと。又曰く或る市會堂に於ては「ホーム、スイート、ホーム」と「マーチング、スルー、デオーヂア」との兩者の奏樂を區別する能はずと。其の他數種の教會堂の失敗を掲ぐ。

尙同著書によれば現在早稲田大學の講堂は十ヶの例を掲ぐる内最不良部より第三番目に當るのみなること注目に値す。

「イリノイ」大學教授「ワットソン」氏は嘗て建築物の音響的缺陷を補ふために、迷信的に針線を室内に張ることの無用を説いて、伯林の二例、紐育の一例及び「ロンドン」の一例を挙げたり。而して「ロンドン」の一例とは即ち前述の「アルバート、ホー」にして此處には無數の針金を張

ゲザアレド、ス、チツヒ	一千五百人	長方形	長サ二百二十五呎、巾六十二呎、高五十一呎
開港記念館	横濱一千人	長方形	

れりと。且し此の場合音響状態は稍改良されたるは他に原因ありと云ふ。是れ即ち前述の四分の三噸の「キヤラコ」幕なるべし。「ハーバード」大學故「セビン」教授は彼の建築音響に關する大研究の原因を同大學内「ヂエフ、フーソン」物理實驗所内の講堂及び同大學一美術館附屬の講堂に於ける音響状態の甚だ不良なりしに歸せり。

一般に音響的失敗の多くは室の餘韻大に過ぐるを普通の原因とす。斯くの如き音響的失敗の跡は敢て歐米に其の例を求むるに及ばず。我國に於ても某及び某の大講堂は殆んど失敗なりしと聞く。加之其の場合

米國大學の校友會に就て(中)

本大學幹事 難波理一郎

五、校友會の活動

米國に於ける諸大學の校友會の活動を述べるに當つては、自らこれを州立大學明ち所謂官學の校友會と私立大學のそれとに區別することを要する。州立大學の校友會に在りては、母校の獨立は固よりその維持發展に於ても大體に於て州政府の施設するところであり、經營するところであるから、これに要する資金、經費の如きも、無論主として州民の負擔せる租稅其他の財源から支出するので、校友會は必ずしもこの點について苦心するの必要が無い。そこで州立大學の校友會に在りては、その任務の第一として、州の財政の豫算編

の所謂迷信的針金使用を企てたるものありと云ふ。

尙一般に「コンクリート」建築物は其の室内不良なる音響状態にあるを常とす。

我が早稲田大學に於ても最近是我が例を経験する不幸を見たり。

是を以て觀れば講堂、劇場等の設けに於ては先づ其の音響状態に重きを置くべきことはい明かにして、前以て計算、實驗等の手段を経て出來得る限り完全を期すべきこと明瞭なるべく、特に收容人員の大なるものに於て其の困難一層大なれば、我が記念大講堂の設計に當つては萬全を期するために是が豫備研究は技術的に大に興味あるのみならず、其の實施の上に必要缺くべからざる問題なりと思惟す。

成に際して適當なる金額の母校經費に充當せらる、やう大に努力するのを常とする。或はまた州政府の事務官、母校の監督官、母校の經營官等の選任に當りて、或は候補者を立て、或は他の候補者を推薦する等の方法に依りて、有爲の人材を挙げ母校の發展に資し、州の教育の向上を圖つて居る。勿論州立大學の校友會と雖も、全然財政的援助を母校に致さないのではない、多く州立大學校友會に在りては、決して獨り政府の施設するところに甘んぜず、自ら進んで母校の爲めに、或はその設備の改善のため、或はその從業者の待遇改善のために、資を齎してこれを助けて居るのであるが、唯その精神、意氣に於て私立大學の校友會の如くなるを得ないの差違がある。

これに反して私立大學の校友會は、母校を以て眞に自己の故郷となし、自己の共有物と思惟し、自ら進んでこれを維持し、援助するに非ざれば、その發達得て期すべからず、近世の大學が學生の納むる授業料のみに依りて決して維持し能はざるのみならず、その改善、發展の如き一にこれ校友の獻身的努力に俟つものなることを自覺せるが故に、母校の爲めに精神的にも物質的にも、努力貢獻を厭はざるの氣風熾烈にしてこれを以て校友會の義務とするのみならず、これを權利とさへ見做して居る。

第一 母校との連絡

母校の隆盛を圖らんには母校と校友の親密なる關係を保持するを要する、母校校友との親密なる關係を保持せんには、常にその連絡を圓滑にせねばならぬ。これ固より一面母校常事者の努力しうべきところであるが、而も亦校友會の一大任務であり、主要なる目的である、此點については何れも校友會常事者も最善の努力、研究をなして居る。その方法としては大小の集會、雜誌の發行、圖書の出版、地方校友會の訪問、通信等を実行して居るが、その詳細は次項以下にこれを述ぶることとする。

第二 寄附の募集

校友會の母校に對する貢獻の直接にしてまた最も有力なるものは、母校の爲めに校友又は一般より寄附金を募集して、その設備の改善、教授の充實、その他母校の發展、隆盛の資金を供給することである。此點について米國諸大學の校友會殊に私立大學の校友會は何れも争ふて企劃し、努力して頗る好成績を擧げて居る、左にその内數種のもの、梗概を掲げる。

(1) エール大學基金組合 本組合は一八九〇年校友に依つて組織されて一種の校友會で、母校の爲めに校友全體より終身寄附を募集することとを目的とし、任務として居る。その組織は同大學の各學部、各級に互り一名乃至數名の代表者を置き、各級を單位として所屬校友の年々の寄附を收纏め、代表者より中央本部に送達することになつて居る。而して其成績は本組合組織の當初即ち一八九〇年に在りて組合員三八五名、寄附金額一、〇一五弗なりしもの、廿五年を経たる一九一五年に至りては組合員即ち寄附者四四八一名、寄附金額一四八、二八〇弗に増加し、此間に募集した金額實に百六十萬弗に達し、現今にては年々の集金僅に二十萬弗以上上つて母校の經營につき多大の貢獻をなしつつある。

勿論その寄附の金額は寄附者の任意である。而してその年々の集金の中幾分を組合の基本財産として積立て、殘額を母校に提供して其經費に充てしむるにして居る、その組合の基本財産と母校經費に提供する割合は年に依つて異なり、一に組合役員と母校當事者の協定に任せてある。本組合が一八九〇年より一九一五年の間に集め得たる金額百六十萬弗の内八十七萬弗餘を基本財産に積立て、集金に要したる費用二萬七千餘弗を控除したる殘額七十萬二千餘弗を母校に提供して居る。これが爲め母校エール大學は時勢の進運に伴ふ諸般設備を改善し、殊に従業者の待遇改善を爲すことができたのである。

(2) ミシガン大學の資金

ミシガン大學校友會は母校講堂の不備不足を補はんが爲めに、一九一五年特に校友中より委員會を作り、資金百萬弗を募集することに決し、米國內を數區に分ち各區に地方委員を囑託し、全校友の協賛を得て一齊に活動したる結果、同年内に八十萬弗を募集し、續いて翌一九一六年までに所期の百萬弗を募集し了りたるを以て、直ちに講堂の起工に着手し、一九一七年に至りて巍然たる大講堂を新設し、母校に大光彩を添へた。

(3) ブラウン大學の愛校資金

ブラウン大學校友會は一九一四年その發意に基き、愛校資金會を組織して、全校友より年々一定金額の寄附を受け、總金額の十分の五を母校に提供し、主として教職員の優遇に充てしめ、十分の二を保留して母校提供金の年々の平均準備金とし、殘餘の十分の三より會の費用を控除したるものは、校友會役員の決議に依つて母校の臨時緊要なる費用に提供することにして居る。

(4) シカゴ大學の資金募集 シカゴ大學校友會は大戦後世界的物價の騰貴に伴ふ母校經費の補充を圖るの急務なるを感じ、一九一九年より一九二〇年に互り、資金二百萬弗を募集して母校に提供して居る。

(5) カ大學の公債募集 カリフォルニア大學は州立大學であるが州政府の豫算のみにては激増し來る學生の教室其他の設備に不十分なるを免れないのを遺憾とし、同大學校友會は州政府の當局者と協議を遂げ、百八十萬弗の公債を發行して新講堂を建設することに決し、校友中より委員を選任して大舉遊説に努め一年有餘にして全部の應募を得た。

(6) ワ大學の體育場資金募集 ワシントン大學校友會にては母校の體育場建設に要する資金六十萬弗を募集する爲め、男女の在學生と共同して、一九二〇年四月より六月に至る約二ヶ月餘の内に所謂ドライブ運動に依り、これを募集して母校に提

供した。

第三 圖畫の出版

圖書の出版と雜誌の發行とは、共に校友相互の親睦と連絡に資し、併せて母校の發展に貢獻する校友會の重要な活動である。殊に圖書の出版の如きはこれに依りて獨り母校の宣傳、學術の普及等に盡すのみならず、同時に校友會自體の有力なる財源となる、その發達を促す資力となることが多い。歐米諸大學の校友會殊に米國各大學の校友會は此點に留意し、雜誌の發行は固より、叢書其他の圖書を出版するものが少くない。その機關雜誌の如きは少くも年四回、多きは毎週一回發行して居るが、最近の傾向は週刊を以て最も迅速に母校の状況を校友に知らしめ、また校友側の母校に對する希望忠告等を適時に發表し得る理想的のものとし、週刊を實行する校友會が多い。或は週刊とするほどの記事が無いかと憂ふるかも知れぬが、米國に於ける實際の經驗に依れば記事は決して少くなく、却て如何にして多數の記事を按排掲載するかを苦心して居る位である。

述べる。

(1) 誌幅と頁數 誌幅は各校友會必ずしも同一ではないが、多くの校友會は所謂四六二倍版即ち我が早稲田學報より少しく小さきものを採用して居る、頁數の如きも無論大學の大小、校友の多少等に應じて異なつては居るが、週刊は凡そ二十頁から三十頁まで月刊は五十頁位を通例とする。

(2) 表紙と寫眞 米國は紙價の廉なる爲めであらうが、表紙の如きは各雜誌とも大てい良質のものを用ゐて而も相當意匠を凝らし、内部に多數の寫眞を入れて説明を補ひ、感興を惹くべく努めて居るが紙質が良いから我が早稲田學報の寫眞より鮮明で美しい。

(3) 雜誌の代價 以上の如く良質の紙を用ゐる、多數の寫眞を挿入して美しいものとして居るに拘らず、その代價は比較的廉い、月刊であつても年額一弗から二弗、週刊であつても年額二弗から三弗である。かく廉價を以てして校友會が維持して行ける最大の原因は、廣告の蒐集に努め多數の廣告を掲載するからである。

(4) 廣告 米國は實に廣告の國である、如何なる機會にも廣告を怠らざる米國商人は矢張り、この多數の購讀者而も社會の中層以上に生活する人々に配付する校友會雜誌には喜んでその廣告を依頼するのである

が、一面また校友會の當事者またよくその蒐集に努力を惜まぬ結果である。廣告の種類は雜誌の性質上自ら限られては居るが、出版業者、保險會社、銀行、ブローカー、信託會社、旅館、運動具店、衣類業者等の廣告が最も多く見受けられる、而してその多くは半年若くは一年の契約であるから、廣告料收入の多額なる割合にその手数を要せぬ、而も校友會はこれに依りて會報の費用の大部分を収めて居るのである。

(5) 内容 内容の清新、報告の迅速精確はいふまでもなく、校友會雜誌の編輯上最も重要な事柄である、同時に校友會雜誌はその内容は決して雜誌にあらずして、新聞紙たることを努め、新聞紙としての任務を果すことを念として居る。何となれば校友の校友會雜誌に依つて知らんと欲する事柄は先づ母校の近狀、同窓の動靜、母校教職員の異動である、深遠なる學理、學說固より歡迎するところあるも、校友の最も多くの感興を惹くものは母校の施設、將來の計畫、教職員の異動、招聘、在學生の狀況、他の校友の近狀等主として母校を中心としたる行政又は人事である、而もこれらの事柄は決して普通の新聞紙又は雜誌に依りて知ることを得ざる特殊の事柄なるが故に、校友會の雜誌としては最も主きを此點に置いて居る。従つてこれらの報導

を成るべく迅速に、正確に、漏れなくするには雜誌式に依らずして、必ず新聞紙の態度を學ばねばならぬ。これと同時に校友會雜誌は校友の意見發表の機關である、校友はこれに依りて母校に對する公正なる忠告、希望、進言をなすこと、して居る。則ち校友會雜誌は母校と校友間の意思の疏通をなし、相互の親善を増し、その仲介機關であるとして居る。故に校友會雜誌はいふまでもなく校友の手に依りて母校と校友との爲めに親善を圖るの見地に立ちて編輯されねばならぬとして居る。私の調べたところではシカゴ大學校友會報の如きは最も深く此點に留意して幾んど完全に編輯されてあるのみならず、在學生の狀況殊に運動競技について最も興味ある記事を載録報導して居るやうに思ふ。

(6) 誌代の集金 校友會雜誌代の集金はこれまで困難なる問題の一つであるが、ミシガン大學校友會の試みた方法はよく成功し、他の校友會もこれに倣ひて此方法を採用して居る。それは二年若くは三年、上の誌代を前納するものに對して割引を行ふのである、その割引率は約を一割乃至二割として居る。而してかくの如き前納金を受領したるときは、校友會はその中より當年度の誌代を引去つてこれを當年度の經費に充て、殘餘の金額は別にこれを銀行預

金として積立て置き、止むを得ざる臨時支出の場合の外は積立金を引き出さず、たゞその利子のみを使用することにしているが、これが爲めミシガン大學校友會は財政上常に安固の位置を占めて居るのである。

圖書の出版について校友會のとれる方針は大體二種ある、一は専ら母校の宣傳に供するもの、一は宣傳に兼ねて學術の普及、教育の進歩に貢獻するを目的とするものである。宣傳用の書籍は多く小冊子とし約百頁位のものとし、極めて有興味に、明細に母校について記述し、殊に多くの寫眞を挿入して了解に便ならしめて居るものが多い。エール大學校友會の發行せる「エールの生活」(The Life at Yale) の如きはこの種小冊子中著名なるものであるが、この「エールの生活」は大學一覽の如き無味乾燥なものでなく、毎頁に同大學の講堂、教室、運動場、體育館、圖書館その他の建物又はその内部、教授の肖像、寄宿舎の設備等あらゆる方面の寫眞を挿入し、入學の手續は固より在學中の學修並に生活に關する懇切なる注意を始め、その費用等を趣味ある筆致を以て極めてアトラクテイブに記述してあるから、凡そエール大學に入學せんとする希望を有する者又は入學後の學生にとりても極めて信頼すべき案内書であるのみならず、一讀直ちにエール大學の學風、精神

を會得することが出来る。ペンシル
ヴェニア大學校友會の發行せる「ペン
シルヴェニア大學の瞥見」(“Penn-
sylvania—a glimpse of the Univers-
ity”)の如きも百四頁中七十五葉の寫
眞を挿み、同大學の起原より説いて
現状に及び、校内の設備、在學費用
等は固より、建學の大精神、ペン大
學の功績等を記述し、當校友會との
連絡その便宜に至るまで細大漏らさ
ず、懇切に而も極めて興味ある文章
を以て書かれてある、ウエスレーア
ン大學校友會の「ウエスレーアンへ
の旅」(“A Trip to Wesleyan”)の如
きも同様である。而してこれ等の書
籍は全國の各中學校又は高等學校、
圖書館、青年會等に無料を以て配付
し、個人希望者にも與へてその入學
を慫慂するに努めて居る。

第四 就職の紹介

米國各大學校友會の多くは近年に
至り、その校友の就職の紹介、周旋
をして居る、地方校友會と常に密接
の連絡をとり、また校友會雜誌を機
關とし、常設的にこれを經營して居
るものが尠くない、また校友のみな
らず、在學中の學生の學費を得るた
めの仕事をも努めて紹介周旋の勞を
とつて居る、その成績も概して頗る
良く、年と共に益々發達の見込が十
分である。コロンビヤ、コーネル、
ウエスコンシン等有力なる校友會は
幾んど悉くこれを行ふて居る。

第五 下宿の周旋

職業の紹介と同時に學生の下宿を
紹介し、または地方より上京したる
校友に對し、その下宿又は一時の旅
館を紹介し、周旋しつゝある校友會
も尠くない。ハーバート、ミシガ
ン、コーネル等の諸大學校友會は極め
て組織的にこれを行ふて居る。これ
には大體内に學生の發行する日刊又
は週刊の新聞紙と連絡をとり、その
援助をかる事も多いが、やはり就職
紹介の場合と同じく豫め貸し問につ
いて實地の調査をなしその表を作り
志望者にこれを提示して周旋するの
であるが、これがため校友會は多く
母校の構内又はその附近に特にこの
事務所を設けて居る。私はハーバー

ト大學に行つたとき親しくこの事務
所の周旋に依り、大學に程近き靜か
な、そして家人の誠に親切な家庭の
一室を借りることができてその施設
の恩恵に浴したことがある。

第六 學生と接近

コロンビヤ、ウエスレーアン、ユ
ニオン等の諸大學校友會に在りて
は、その幹事をして常に母校在學生
と接近せしめ、學生の諸會合、研究
會等には努めてこれに出席し、獨り
幹事のみならず、各方面の職業に従
事せる校友も成るべく多く列席して
學生を指導し、獎勵し、またはその
顧問となりて學生等と親しむ機會を
作つて居る。前記各大學に於てはこ
れが爲めに校友學生間の情誼に深
く、随つて益々愛校心と先輩校友を
敬愛するの念とを強からしめて居
る。私はコロンビヤ大學に在りてそ
の實際を目撃して深く感動したので
ある。

この他校友會の活動として掲ぐべ
き事柄は少くない、例へば常に特別
の委員を設けて他の大學の施設せる
ところ又はその計畫等を調査してこ
れを研究し、その成案を以て母校當
事者に進言し、又はその改善を促す
等の如き、若くは母校學生の實際生
活を調査して、その改善を母校の當
事者と學生自らに忠告する如きこと
をなせるものもある。

校

報

工手學校生徒監督制

工手學校の生徒取締は、從來「巡
視」と稱したりしが、自今「生徒監督」
と改めて其の任に當らしむること
せり。

臨時休校

七月三日、故東伏見宮依仁親王殿
下の御葬儀を行はせらるゝに付き、
敬弔の意を表し、謹みて休校したり。

維持員會

七月の定維持員會は、都合に因
り延期して、十七日午後三時より開
設し、評議員推薦の件其の他に就き
審議し、終つて、高田記念事業委員
長、並に同事業後援會長溝澤子爵よ
り、記念事業の經過に關して巨細の
説明を試みられたり。

當日の出席者 會長、大隈侯爵、溝
澤子爵、高田、松平伯爵、増田、三
枝、昆田、渡邊、宮川、坂本、淺野、
金子、中島、寺尾、鹽澤の各維持員

學部長主任會

六月二十日午後三時學部長主任懇
談會を開く。

教員會

六月二十一日午後五時より永樂俱
樂部に於て、政治經濟學部及び政治
經濟學科教員會を開き、種々懇談を

重ねたり。

六月二十六日午後五時 永樂俱樂部
に於て、法學部及び法學科教員會を
開催し、懇談する所ありたり。

七月四日午前九時 文藝部教授會を
開催し、左の諸件に就き審議したり。

一、卒業論文指導の件

一、學位請求論文審査に關する件

七月七日午後三時より 法學部教授
會を開き、次學年度教科書選定の件

其他に就き協議したり。

七月八日午後五時 永樂俱樂部に於
て 商學部教員會を開き、教授上其の

他に就き懇談せり。

研究室員會

七月四日午後三時より 會議室に於
て 研究室員會を開き、研究室使用の
件等に就き協議せり。

高等學院教授會

六月二十三日午後三時より、恩賜
館會議室に於て、第二高等學院教授
會を開き、左の諸件に就き討議した

り。

報告

一、學友會に關する件

議案

一、出缺者に關する件
一、各科目試験時間に關する件

山本 虎一(愛知) 江原 寅雄(佐賀) 池田 登(東京) 穴澤 武久(山形) 大島 昇(栃木) 黒川喜代二(東京) 三ヶ田 福次郎 藤永 熊雄 高田 半吉 豫科第三學期 小西房輔 豫科第二學期 木村 染吉 豫科第一學期 中池 繁

片山 武雄(東京) 鹽海 新吉(神奈川) 江口梅三郎(長野) 大熊榮太郎(東京) 松井正太郎(富山) 黒川喜代二(東京) 三ヶ田 福次郎 藤永 熊雄 高田 半吉 豫科第三學期 小西房輔 豫科第二學期 木村 染吉 豫科第一學期 中池 繁

太田 強(静岡) 水村 雅二(東京) 渡邊 精吉(静岡) 渡邊 新吉(神奈川) 野上 藤造(東京) 内藤増太郎(福岡) 櫻田徳次郎(秋田) 大柳 弘(福井) 津田 猛男(宮城) 片山 健一(静岡) 岡田周一郎(神奈川) 關野 明(静岡) 峯尾 建三(東京) 渡邊 清(千葉) 遊佐 春治(山形) 千原 文藏(京都) 厚母 義夫(東京) 齋藤 賢策(青森)

清水 一郎(山梨) 高橋 健壽(東京) 杉本 次一(神奈川) 根本 晟雄(茨城) 井野宮 徹(茨城) 北條 光二(長野) 笠原 貢(長野) 栗村 榮作(福島) 小村 恒治(長野) 佐々木七太郎(東京) 三村 近義(栃木) 松田 春次(北埼玉) 増山新次郎(東京) 水村 時治(東京)

寺本喜次郎(廣島) 高木彌三郎(福島) 房園 誠藏(鹿島) 金子 善藏(新潟) 林 傳藏(富山) 島田 勝巳(群馬) 大平 二郎(福島) 柏木 昇(神奈川) 名取 義人(長野) 久田 雅雄(大阪) 間中 茂(東京) 武藤 伊作(静岡) 笹尾 敏明(山口)

久良木綿吉(廣島) 阿部 護(宮城) 薄 千代三(新潟) 村上 春吉(福岡) 公平 雄助(山形) 佐藤 勝(大分) 深水 進(熊本) 西村 壽郎(福岡) 横塚 峯松(栃木) 矢田 進(神奈川) 木村 傳藏(熊本) 島海助次郎(東京) 立花 文七(岐阜) 高橋 庄吉(東京) 鈴木 淳(茨城) 荻野 忠一(福島) 比佐 直永(福島) 熊田 元治(福島)

若山 春滋(岐阜) 有吉 春次(福岡) 佐々木三郎(愛知) 蒲原 勇(北埼玉) 堀野 至(和歌山) 笹川 正夫(佐賀) 立石 定次(茨城) 中島 遊龜(高知) 椎野 鷹雄(静岡) 水谷 清一(福岡) 高橋儀三郎(新潟) 坂藤 正(大分) 花田啓次郎(福岡) 大和田金太郎(茨城) 佐藤 利光(福島) 八須 定吉(埼玉) 熊田 元治(福島)

○各科卒業生ニシテ大隈綾子夫人ヨリ賞品ヲ受クル者

機械科 廉隅千代次 電工科 關村新造 探礦冶金科 磯川均 建築科 緒方次郎 土木科 久良木綿吉

○本館六月分閱覽統計左の如し。

開館の數 三十日

種別 人員 冊數

學生貸出 一四、五四九 二四、四三三

特別貸出 四〇 一〇二

館外貸出 一萬 六五五

公衆貸出 〇 〇

合計 一四、七三三 二五、一八〇

○圖書新加月報 本館六月分新加圖書は總計二百六十二部 四百二十五冊にして内洋書百五十八部 百八十六冊和漢書百四部 二百三十九冊あり其細別左の如し。

圖書館報告

四	正善	佐藤益治
三ヶ田	福次郎	藤永熊雄
高田	半吉	
豫科第三學期		
小西房輔		
豫科第二學期		
木村染吉		
豫科第一學期		
中池繁		

E	經濟財政	四	三	二
F	文學	九	二	二
G	語學	一	四	五
H	地理	六	六	六
I	教育	一	一	一
J	倫理	二	二	三
K	工學	二	二	二
L	社會學	九	二	二
M	美術工藝	五	九	九
N	宗教	二	八	二
P	辭書			八
Q	統計報告			
R	露語圖書			
T	商業交通	一九	二	三
U	兵事			
Z	圖書學	〇		一
合計		二二	四八	一八六

○採鑛冶金科

磯川 均(福岡) 瓜生 嘉三(福岡) 相羽太三郎(栃木) 倉地覺太郎(福岡) 佐藤 卓馬(廣島)

林 壯平(東京) 三原忠五郎(山形)

○土木科

久良木綿吉(廣島) 阿部 護(宮城) 薄 千代三(新潟) 村上 春吉(福岡) 公平 雄助(山形) 佐藤 勝(大分) 深水 進(熊本) 西村 壽郎(福岡) 横塚 峯松(栃木) 矢田 進(神奈川) 木村 傳藏(熊本) 島海助次郎(東京) 立花 文七(岐阜) 高橋 庄吉(東京) 鈴木 淳(茨城) 荻野 忠一(福島) 比佐 直永(福島) 熊田 元治(福島)

○各科卒業生ニシテ大隈綾子夫人ヨリ賞品ヲ受クル者

機械科 廉隅千代次 電工科 關村新造 探礦冶金科 磯川均 建築科 緒方次郎 土木科 久良木綿吉

○本館六月分閱覽統計左の如し。

開館の數 三十日

種別 人員 冊數

學生貸出 一四、五四九 二四、四三三

特別貸出 四〇 一〇二

館外貸出 一萬 六五五

公衆貸出 〇 〇

合計 一四、七三三 二五、一八〇

○圖書新加月報 本館六月分新加圖書は總計二百六十二部 四百二十五冊にして内洋書百五十八部 百八十六冊和漢書百四部 二百三十九冊あり其細別左の如し。

E	經濟財政	四	三	二
F	文學	九	二	二
G	語學	一	四	五
H	地理	六	六	六
I	教育	一	一	一
J	倫理	二	二	三
K	工學	二	二	二
L	社會學	九	二	二
M	美術工藝	五	九	九
N	宗教	二	八	二
P	辭書			八
Q	統計報告			
R	露語圖書			
T	商業交通	一九	二	三
U	兵事			
Z	圖書學	〇		一
合計		二二	四八	一八六

○建築科

緒方 次郎(佐賀) 篠原規矩雄(鹿島) 島村 高正(東京) 若林 鍊三(千葉) 笠原 實平(長野) 森山 兵松(愛知)

片岡 繁二(山口) 林 榮吉(東京) 橋本 庄八(福島) 富永 末吉(滋賀) 村井 利一(北埼玉) 宮島 慶治(東京)

○土木科

久良木綿吉(廣島) 阿部 護(宮城) 薄 千代三(新潟) 村上 春吉(福岡) 公平 雄助(山形) 佐藤 勝(大分) 深水 進(熊本) 西村 壽郎(福岡) 横塚 峯松(栃木) 矢田 進(神奈川) 木村 傳藏(熊本) 島海助次郎(東京) 立花 文七(岐阜) 高橋 庄吉(東京) 鈴木 淳(茨城) 荻野 忠一(福島) 比佐 直永(福島) 熊田 元治(福島)

○各科卒業生ニシテ大隈綾子夫人ヨリ賞品ヲ受クル者

機械科 廉隅千代次 電工科 關村新造 探礦冶金科 磯川均 建築科 緒方次郎 土木科 久良木綿吉

○本館六月分閱覽統計左の如し。

開館の數 三十日

種別 人員 冊數

學生貸出 一四、五四九 二四、四三三

特別貸出 四〇 一〇二

館外貸出 一萬 六五五

公衆貸出 〇 〇

合計 一四、七三三 二五、一八〇

○圖書新加月報 本館六月分新加圖書は總計二百六十二部 四百二十五冊にして内洋書百五十八部 百八十六冊和漢書百四部 二百三十九冊あり其細別左の如し。

E	經濟財政	四	三	二
F	文學	九	二	二
G	語學	一	四	五
H	地理	六	六	六
I	教育	一	一	一
J	倫理	二	二	三
K	工學	二	二	二
L	社會學	九	二	二
M	美術工藝	五	九	九
N	宗教	二	八	二
P	辭書			八
Q	統計報告			
R	露語圖書			
T	商業交通	一九	二	三
U	兵事			
Z	圖書學	〇		一
合計		二二	四八	一八六

○建築科

緒方 次郎(佐賀) 篠原規矩雄(鹿島) 島村 高正(東京) 若林 鍊三(千葉) 笠原 實平(長野) 森山 兵松(愛知)

片岡 繁二(山口) 林 榮吉(東京) 橋本 庄八(福島) 富永 末吉(滋賀) 村井 利一(北埼玉) 宮島 慶治(東京)

○土木科

久良木綿吉(廣島) 阿部 護(宮城) 薄 千代三(新潟) 村上 春吉(福岡) 公平 雄助(山形) 佐藤 勝(大分) 深水 進(熊本) 西村 壽郎(福岡) 横塚 峯松(栃木) 矢田 進(神奈川) 木村 傳藏(熊本) 島海助次郎(東京) 立花 文七(岐阜) 高橋 庄吉(東京) 鈴木 淳(茨城) 荻野 忠一(福島) 比佐 直永(福島) 熊田 元治(福島)

○各科卒業生ニシテ大隈綾子夫人ヨリ賞品ヲ受クル者

機械科 廉隅千代次 電工科 關村新造 探礦冶金科 磯川均 建築科 緒方次郎 土木科 久良木綿吉

○本館六月分閱覽統計左の如し。

開館の數 三十日

種別 人員 冊數

學生貸出 一四、五四九 二四、四三三

特別貸出 四〇 一〇二

館外貸出 一萬 六五五

公衆貸出 〇 〇

合計 一四、七三三 二五、一八〇

○圖書新加月報 本館六月分新加圖書は總計二百六十二部 四百二十五冊にして内洋書百五十八部 百八十六冊和漢書百四部 二百三十九冊あり其細別左の如し。

E	經濟財政	四	三	二
F	文學	九	二	二
G	語學	一	四	五
H	地理	六	六	六
I	教育	一	一	一
J	倫理	二	二	三
K	工學	二	二	二
L	社會學	九	二	二
M	美術工藝	五	九	九
N	宗教	二	八	二
P	辭書			八
Q	統計報告			
R	露語圖書			
T	商業交通	一九	二	三
U	兵事			
Z	圖書學	〇		一
合計		二二	四八	一八六

北村 宗一氏 宮田 修氏
箕浦 勝人氏 三木 武吉氏
峯岡 信吉氏 宮川 一造氏
廣井 一氏 本橋 靖氏

各地方の狀況

眞岡——眞岡町小學校講堂に於て、
十三日午後三時講堂會開會場衆約三

縣別期間	擔當教員	擔當職員
栃木 ^a	安部 二木(保)	(主)望月。 阪本 福原

足利——昨夜(二十四日)足利市校友會事務所たる八友會内に、校友及學生父兄の聯合會を開催し、小生眞岡町より引返し參會し、校友總て殆ど全部十三名父兄側は當地の有力者にして足利銀行の頭取荻野萬太郎氏等出席、様々に協議の結果故大隈侯記念事業後援足利支部なるものを組織し、幹事は校友全部之に當り、顧問には學生父兄全部に囑托し、寄附金は校友學生父兄を通じて一口金五十圓とし、資力に應じて數口を負擔する事とし、亦有志家の寄附は一口金五圓とし、市内及足利郡全部に涉り募集する事に協定し校友の人員其他の事情より少くとも五千圓以上は足利支部に於て引受くる事に決定致候。

に關する打合せを爲し今後の活動に依頼せり。

足利——昨夜(二十四日)足利市校友會事務所たる八友會内に、校友及學生父兄の聯合會を開催し、小生眞岡町より引返し參會し、校友總て殆ど全部十三名父兄側は當地の有力者にして足利銀行の頭取荻野萬太郎氏等出席、様

北村	宗一氏	宮田	修氏
箕浦	勝人氏	三木	武吉氏
峯間	信吉氏	宮川	一造氏
廣井	一氏	本橋	靖氏

力ある有志の組織に成るものに付き
必ず實現可致と存候、(望月氏報)

長野——(前略) 扱て小生只今長野に
滞在致居、漸く準備丈は完成仕申
候御承知の通り至難の場所に有之候
最近市區改正、善光寺修繕費等にて
苦しめられ候後に候間殊更困難に御
座候併し鬼に角宮下友雄氏、其他二
名許りの大なる厚意に依り目鼻丈は
は開け申候、二十六日午後五時より
の校友會に於て一舉に校友の寄附を
取纏めさせ(宮下氏一切周旋の等)其
れより校友と計り有力者募集を開始
し一方學生は一般民衆募集をなす手
配に致申候、此長野にて相當の成績
を挙げ得れば其餘は易々たるものに
候、(土屋氏報)

和歌山——昨十九日及今二十日の
兩夜に涉り學生の幹旋に成れる和歌
山市公會堂に於ける活動寫眞の宣傳
は、當地破天荒の盛況を極め、兩夜
共定員七百名の座席は、千二百名に
上り眞個立錫の餘地もなく、滿員入
場謝絶の貼札を爲すに至れり。二十
日夜の日方町の活動寫眞も同地劇場
空前の入場者ありと稱せられ、映畫
の理想に輝く早稻田大學には當地學
生の理想を集中せしめ、故大隈總長
侯爵の邸園は紀念館事業に多大の印
象を與へ、老侯の一日、噫大隈侯、
國民葬等多大の感想を與へ、早華兩
大學野球戰は學生の血を湧かし、早
大學生の野球應援歌を高唱するに至

れは、八方より歡聲興り、休憩中の
校歌には聴衆中より調子を取りて應
ずるものあり、感興湧きながら、秩
序あり、近來稀れなる意義ある宣傳
なりき。特に學生團の校歌を高唱し
て市内を練り歩き、時々大道演説を
行ひたるは八萬市民の注意を惹き、
ワセダ、ワセダの聲調は兒童に至る
まで唱ふることに成り申候。十三年
前老侯御來遊あり、一場の演説あつ
て當市の人士に深き印象を残したる
當時を追想せしめ申候。明二十一日
は駿河町に、明後二十二日は橋本町
にて是亦小林町長熱心主動者となり
て奔走せらる、豫定に候、更らに校
友學生一團となりて活動致し居り申
候間、二十九日高田博士御來遊の時
は景氣の絶頂に達する様盡力致居候。
(七月二十日安口報)

福岡(博多)自七月三日至同十日。五
日校友會小會開催。席上實行方針、
校友割當額等を定む。校友約百名
割當豫想六、六〇〇圓十日迄の申
込二、五九〇圓(廿一名)(校友
會事務所、古小路町日清生命支社
内)
熊本(自七月十一日至同十三日)
六月末より七月十一日迄選舉の爲
校友の多數事業に關する會合不能
なりしを以て、十三日夜委員會小
會を開催。實行方針割當額等を定
む。
市内係委員安田善造、伊集院勝吉

藤川年三氏

郡部係、内藤藤義、中路新吾二氏
島原保、池田貞記氏
二十日更に委員會開催の上實行方
針具體案を議する事に決定す。(校
友會事務所、市内桶町水民直喜氏
方)

大牟田柳河(自十四日至十五日)

大牟田三井系會社内校友を歴訪
す。社内校友約二十六名中委員を
依頼し、社内取纏めを依頼す。園
田種久氏事業の爲めに専ら盡力せ
られ、特に學生委員の集合に自家
を開放せられ、氏自身事務を幹旋
せらる(校友會事務所本町一丁目
園田種久氏方)
柳河郡長戸川氏専ら事業事務を取
扱はれ、十六日校友委員會學生委員
會合の上、實行方針等を議定する
由、(校友會事務所郡役所内戸川槌
次郎氏)
久留米(自十六日至廿日)
校友中より、河北、向井、龍頭三氏
市會議員立候補の爲め校友會は事
業實行に着手不能なりしも、黒川
亮一氏専ら幹旋せられ、常に同行
校友訪問せられ、主なる校友十四
名申込二、五〇〇圓を受く。
長崎(自廿一日至廿三日)
學校より六月三十日校友會開催依
頼狀に對し、同校友會に開催受諾
の返信なかりしを以て、學校は開
催なきものとして教授の出張なか

りしは實に遺憾の次第にて、從つ
て事業委員會の會合等もなかりしを
以て廿一日校友會幹事及新評議員
中津海知幾氏及學生委員の會合を
求め實行方針等につき熱議し委員
の追加をなす。廿七日更に委員會
開催に決す。(校友會事務所市内東
濱町田中仙之助氏方(上村主事報))

故總長大隈侯爵紀念事

業趣旨
世界的偉人トシテ認メラレシ我が
早稻田學園ノ創始者故總長大隈老侯
近イテ茲ニ數月、而モ哀悼追慕ノ念昨
尙ホ今ノ如ク、痛惜ノ情益々新タナ
ルモノアルヲ覺ユルハ、コレ獨リ事
ニ關シテ從フモノノミノ感ニ非ザル
ベキヲ信ズ。然レドモ今ニ於テ尙ホ
徒ラニ故總長ヲ哀悼シ痛惜スルハ決
シテ故侯ノ意ニ副フ所以ニ非ラズ、
蓋シ我早稻田大學ハ故總長ガ四十年
間心血ヲ澁ギテ拮据經營セシ苦心ノ
結晶ニシテ、曩ニ九旬ノ病床ニ在リ
テ夢寐尙ホ念頭ヲ離ル能ハザリシモ
也。總長今ヤ幽界ニ在リト雖モ一
念尙ホ儼トシテ學園ノ上ニ存シ英靈
故侯ノ素志ニ酬ユルノ途ハ唯一其遺
業タル學園ヲ恢弘シ其權威ヲ發揚ス
ルニ努ムルニ在ルノミ。
茲ニ於テ局ニ學園ノ事ニ當ルモノ
ハ故總長ノ記念事業トシテ其生前ノ
宿望タリシ大講堂ノ建設ヲ始トシ、
研究機關ノ整備、教授團ノ充實等學

園ノ内容外觀ニ一大改善ヲ施シ、以
テ總長ノ英靈ヲ慰メント決意シ、既
ニ委員ヲ選ビテ鋭意調査研究ノ歩ヲ
進メツ、アリシニ際シ、恰モ侯爵家
ヨリ老侯ノ意思ニ基キ宏大ナル邸宅
ヲ舉ゲテ之ヲ學園ニ寄與セラル、ノ
一大福音ニ接シタルヲ以テ、茲ニ愈
々該事業ヲ急速斷行スル心ヲ固フシ
即チ故侯遺愛ノ庭園及建築物ヲ學園
ニ編入シ、考侯ガ四十年間起臥セラレ
テ廣ク交リヲ内外ノ人士ト結ビ、且
之ヲ指導セラレタル舊蹟ヲ保存シ、
以テ高風ヲ永ヘニ後昆ニ傳フルト同
時ニ、此處ニ大講堂ヲ建設シテ學徒
訓育ノ上ニ更ニ一段ノ意義アラシメ
且之ヲ公開シテ以テ社會奉仕ノ一端
ニ供セントスルニ至レリ。然レドモ
其之ヲ行フニ要スル資金ハ固ヨリ小
少ナラズ、大講堂ノ建設ノ如キ常ニ
萬餘ノ學徒ヲ擁スル學園トシテハ其
規模固ヨリ廣大ナラザルベカラズ、
而シテ之ガ建築費ハ如何ニ節約ヲ旨
トスルモ約百萬圓ヲ要スベク、更ニ
侯爵家破格ノ厚意ニ對シテモ唯之ヲ
受クルノミニシテ何等報謝ノ舉ニ出
デザルハ固ヨリ當然ノ事ニ非ラズ、
況ンヤ故侯ノ一世ハ始終一貫社會奉
仕ニ急ニシテ爲ニ財ヲ費スコト諒カ
ラズ、隨テ必ズシモ多ク兒孫ノ爲ニ
美田ヲ購フノ邊アラザリシガ如クナ
ルヲヤ。乃チ大講堂ノ建設、侯爵家
ニ對スル報謝、其他當面急ニス可ラ
ザル學園ノ内容充實ニ要スル諸費ヲ

數フル時ハ妙クトモ二百萬圓ノ資源ヲ備ヘザル可ラズ、而モ我ガ早稻田學園現在ノ財政ハ僅ニ經常ノ費用ヲ償フニ足ルニ過ギズ、決シテ斯ル巨額ノ支出ニ堪ヘザルノ狀態ニ在リ、即チ故ニ重ネテ江湖篤志諸君子ノ懇情ニ懇ヘ、其義捐ニ俟チ此目付達スルノ外他ニ方策無キヲ如何セシ。

惟フニ我ガ早稻田學園今日ノ隆達アルハ、之レ偏ニ其創業以來優渥ナル皇室ノ恩寵ト江湖諸賢數次ノ殊遇ニ浴シタルニ依ルモノナルコト固ヨリ論ヲ俟タズ、故ニ從來ト雖モ日夕之ニ酬ユルノ途ヲ講ジ敢テ或ハ意ルトコトナシト雖モ、學徒ノ來リ集マルモノ逐年激増シタルガ爲ニ資金ヲ舉ゲテ機カニ教室ノ増築其他應急ノ設備ニ費シ、内容充實ノ目的未ダ多ク達セラレズ、大講堂ノ如キ學徒ノ品性陶冶上必須ニシテ一日モ缺クベカラザル緊要ノ機關サヘ未ダ之ヲ備フルノ邊アラザリシ也。而モ最近世界思潮ノ動搖ニ鑑ミル時ハ重キヲ訓育ニ置クノ愈々益々切實ナルモノアルト同時ニ、其建設ガ故總長積年ノ祈願ナリシヲ思ヘバ、茲ニ重ネテ資ヲ大方ノ諸君子ニ仰グノ一事衷心誠ニ忍ビ難シト雖モ、而モ亦止ムヲ得ザルノ必要ニ出デタルモノニシテ、深ク江湖諸君子ノ諒察ト同情トヲ希ハザル可ラズ。

ニ於テ既ニ一萬六千ノ卒業生ヲ出シ聊國家教育ニ貢獻シタル事實ハ滿天下ノ認識セラル、所ナリ、加フルニ故侯生前ノ交遊ハ眞ニ天下ニ普ク、故侯ニ對スル深厚ナル同情ハ社會ノ各方面ニ横溢シ、決シテ獨リ我學園ニ關係ヲ有スルモノ、ミ止マラザルハ、其國民葬ノ未曾有ノ盛觀ナリ

拜啓時下愈御清適の段慶賀奉候さて曩きに故總長大隈侯爵記念事業に付懇願申上候處幸に諸君子の熱列なる御賛同を蒙り末だ幾くならずして既に別項御報告申上候通續々御申込端に御送金を辱ふし、當局者一同深く感激致居候次第に候、されど今回の記念事業は頗る大事業に有之、此上とも諸賢の格別なる賛同、盡力を蒙るに非ざればその必成を期し難く存せられ、何卒此邊御諒承是非とも本事業を完成して、一は故總長積年の希望を貫徹し、一は母校の發展に資し併せて國家の教育上に貢獻なし下され候様重ねて懇願申上候 敬具

大正十一年六月

校友各位

早稻田大學學長 鹽澤昌貞
記念事業委員長 高田早苗

募集規定

一 早稻田大學ハ故大隈總長記念事業完成ノ爲寄附金貳百萬圓ヲ募集ス
一大隈侯爵記念事業資金トシテ募集シタル寄附金ハ主トシテ左ノ目的

- ニ使用ス
- 一大講堂建築費
- 一大學ノ内容改善ニ關スル應急諸經費
- 一侯爵邸ノ寄附ニ對シ 侯爵家ヘノ謝禮
- 一本記念事業資金ノ募集ハ故侯一周忌(大正十二年一月十日)ヲ以テ締

切ルモノトス
一 寄附金額ハ制限ヲ設ケズ
一 寄附金ノ拂込ハ一時及年賦(三ヶ年以内)ノ二種トス。
一 寄附者ハ寄附申込證ニ金額及寄附方法ヲ記シ署名捺印シテ申込マレタシ、但即時寄附ハ必ズシモ此形式ニ依ルヲ要セズ
一 寄附者ニ對シテハ早稻田大學學長及同基金管理委員長連署ノ領收證ヲ送附ス
一 寄附者ノ芳名ハ報知、讀賣ノ二新聞及各地方ノ新聞ニ掲載ス
一 寄附金ハ本大學又ハ本大學振替貯金口座東京(一七九五〇番)ニ拂込レタシ
一 寄附金ハ早稻田大學基金管理委員之ヲ管理シ其決議ヲ以テ確實ナル銀行ニ預ケ入ル、モノトス

記念事業後援會趣旨

早稻田大學は故大隈侯の創立に係り歳を閱する四十年、今は儼たる帝國の一大學府たり、侯は半生の心血を此校に傾け晩年に及ぶも夙夜其發達を圖り嘗つて懈ることなし、常に語つて曰く吾が死後邸宅を早稻田大學に寄附し以て發展の餘地に供せん、侯が此校に篤き以て見るべし、惟ふに此校曩きに新大學令に依り官設大學と地歩を同ふするに至れりと雖も而も其基礎未だ鞏からず、薰育の諸機關未だ充實に至らず、故侯も常に之を憾とせり、其の歿後平生の言に背かず、邸宅を舉げて學校に寄與せられたる者、學校當事者を激勵し、百尺竿頭一步を進めて校の大成を庶幾せらるゝにあるや察するに難からず、校の當事者は果然奮起して邁進侯の志に副はんと企圖せり、吾等故侯に因縁淺からざる者如何んぞ之を傍觀するを得んや、此大學を大成するは、實に帝國最高教育に大なる寄附を爲すものにして固より一大學の私事と爲す可きにあらず、吾等はこゝに於て同志相背り一會を結び同校の計畫を後援し、補助し其の目的を達せしめんとす、冀くは大方の諸君子幸に吾等の微意を諒とし賛助あらんことを。

大正十一年六月

故大隈侯爵記念事業後援會

本會規定

- 一、本會は這船早稻田大學に於て企畫せる故大隈侯爵記念事業を援助し其完成を期せしむるを以て目的とす
- 一、本會は故大隈侯爵治念事業後援會と稱す
- 一、本會に左の役員を置く
 - 會長 一名
 - 贊助員 若干名
- 一、本會の事務所は早稻田大學内に置く
- 一、本會の後援すべき記念事業は左

の如し

一、侯爵記念大講堂の建設

二、大學の内容改善に關する諸設備

一、前記事業並に今般大隈侯爵邸を早稻田大學に寄附ありたるに付侯爵家へ報謝を要する金額を併せて金貳百萬圓の資金を募集す

一、寄附金は本會直接に取扱はず早稻田大學へ御申込を乞ふ事とす

後援會起發人(イロハ順)

會長 子爵 遊澤 榮一

一木喜徳郎 犬養 毅

原 富太郎 子爵 波多野敬直

原口 要 堀内文次郎

床次竹二郎 尾崎 行雄

校友會報

幹事會

七月十九日午後五時より、永樂俱樂部に於て幹事會を開く。先づ鹽澤會長より、前週前後七回開會の常務委員會に於ける申合せ事項、東京方面の委員數及び其の成績をはじめ、大學教職員の夏季出張講演に關する件其の他に就き、具さに報告せられ續いて、協議事項に入り、一同熱議を重ねられたるが、其の議を経たる事項次の如し。

一、常務委員會は、自今、毎月第一第三水曜日に會合し、同時に當分の中幹事會と聯合して開會

伯爵 大木 遠吉 大橋新太郎

和田 豐治 子爵 加藤 高明

神田 鍾藏 男爵 神田 乃武

横山 章 武富 時敏

丹波 敬三 添田 壽一

内藤 久寛 男爵 中島久萬吉

長岡 外史 村井吉兵衛

伯爵 内田 康哉 矢野 文雄

男爵 山本 達雄 山下龜三郎

町田 忠治 藤山 雷太

小池 國三 河野 廣中

男爵 後藤 新平 江口 定條

麻生 正藏 男爵 阪谷 芳郎

箕浦 勝人 島田 三郎

男爵 森村 開作

する事

二、推薦校友に關する件

三、住所不明校友取調方に關する件其他

當日の出席者

鹽澤 會長

井芹 繼志 伊藤重治郎

林 癸未夫 大島 正一

影近 清毅 堀崎 敏雄

吉田 秀人 田村 保

竹田 茂 竹野 長次

名取 夏司 中桐確太郎

村井 五郎 山ノ内 弘

山森 利一 東 清重

佐藤 正 崎山刀太郎

森盛一郎 鈴木佐平次

片山紀念事業部主事 其他

常務委員會

東京方面紀念事業委員會(校友會)の申合せに基き、其の常務委員會を前日に引續き、七月五日、十二日、十九日(幹事會當日)の三回に互り開會し、募集細則を定むるの件、募集方法に關する件其の他に就き協議したり。

大正五年大政クラス會

六月十四日永樂俱樂部で上京中の殷汝耕君歡迎晚餐會を開いた。鹽澤先生は御多用中殊に同夜名古屋御出張の御身を以て、又大山先生は別室の御會議から御臨席下つたことは毎々ながら恩師の温情感謝に堪へない。殷君は級友の希望に應じ自ら中華人民性と日本國民性を批判し解剖すること明快を極め、其兩國政治思想、社會組織産業狀態の對照論評は聽者に感銘する處頗る大であつた、之に伴ふ兩先生の御高説は錦上更に花を添え、十時半散會した。席上故總長紀念事業に各自盡力の申合をし又次回世話方を竹村君とした。此上來賓の外參會者左の如し。

飯島德次(自營飯島商會) 出井盛之(母校講師) 竹村佳康(自營日東出版社) 上田輝治(日本自働車) 須藤哲三(藤倉電線) 井上啓一郎(早川電力) 堀田顯次(古河合名)

函館校友會

そよ吹く風と暖く谷間の鶯の聲を聞くたに心持良き六月二十六日午後六時より函館校友會の睦しき會合は五島軒樓上に於て開催された。

此度は永らく歐米へ留學されし渡邊長太郎氏の歡迎會を兼ねたので、會は一段の興味を増した。定刻綱塚德次郎氏の開會辭あり、それより四方山々の話を過ぎ、やがて「デザートコース」に會長渡邊氏立ちて左の如く語られて、午後十時閉會した。

當日の出席者左の如し。

主客渡邊長太郎氏

橋谷德治 西村忠一 加藤盛吉

小柴卯之七 兵藤榮作 齋藤平七

勝浦英一 長谷川淑夫 葛西民也

綱塚德次郎 野村誠一 竹内行男

龜井喜一郎 久保周次

本夕私の爲めに歡迎會を催された諸君の御篤志を感謝す。

私は大正六年十日横濱を出發して米國に赴き同地で「ノースカロライナ大學」に學びそれより歐洲に渡り英吉利、佛蘭西、伊太利、獨逸、瑞西、白耳義、和蘭、西班牙等を見學して滿四年足掛五年間の外遊を了りて本年三月東京へ歸りました。外遊中尤も感じた事がある事であります。次に婦人の勢力の強いこと米國の禁酒會の發布其他道徳に關する矯風立法が主として婦人の力に依つて行はれた事を考へると一國の進歩發達又個人の間の事健全の生兒を得ることとして婦人の力に依

らぬ事はないと感じました。又彼の地では事業の經營に就ても「クイック」と「シンブル」で時間嚴格事務の取扱が簡單である事に驚く斗りてあります。「シャトル」なども小さい活動寫眞館など二人で經營してゐると云ふ例があります又日本の文明が獨立であると云ふ事は生産品が日本的で世界的でなく隨つて大量生産が出来ず爲めに物價の高くなると云ふ次第であります云々

三重縣校友會

三重縣校友會は七月五日午後四時から津市極樂町聽潮館に開いた。出席者は

伊藤齋太郎、市川博、羽田秀雄、大西顯純、太田茂雄、渡邊知空、田端稔、中島一郎、牛場清次郎、雲井憲次郎、藤田幸太郎、小島保吉、佐伯孝平、平野恒三、熊澤龍太郎、太田茂雄、黒田傳三、松本宗重、原野三郎、窪田幹二

故大隈總長の塑像を床の間に安置して、一同著席すると、松本宗重氏は開會の挨拶に次で、故總長大隈侯爵薨去に際し本校友會の執つた行動と弔慰會計收支を報告して、一同の同意を求むると共に、謝意を表し、更に會員よりの祝電を披露した後、當日早稻田大學より派遣の中島半次郎教授を紹介するや、中島教授は同大學の近状より説き起して故總長大隈侯紀念事業として二百萬圓を全國より募集して、以て同大學に文化的設備を施し、併せて故侯爵の遺族に

對し謝意を表したい、と述べて、校友の賛同を望み、次に幹事議口直枝氏は各地に於ける校友會の紀念事業寄附募集に對する活動方法を説述し阿山郡出身の清水仙一氏は本縣出身在學生として同大學在學生の本事業に對する中合せ等を披露して、六時談話會を了る。續いて晚餐會に移る松本氏改めて司會者として中島教授一行の歡迎辭を述べ、中島氏の謝辭あり、牛場清次郎氏の故大隈總長葬儀會葬實況談、雲井憲次氏の發議により本紀念事業に對し發起人並に當日の出席者を本縣在住の委員となす事にしては如何と諮り、平野、熊澤、佐伯其他諸氏の賛成あり、並に校友會本部を津市伊勢新聞に設置する事に決し、藤田幸太郎氏の發議で會員の五分間演説あり。最後に伊藤齋太郎氏の發唱で早稻田大學萬歲、中島教授の發唱で本縣在住校友會の萬歲を唱和して和氣霽々裡に散會した。

長崎縣校友會

七月十一日午後七時半より市内西濱町精洋亭に於て長崎縣校友會を開催す。溫だらしき梅雨を侵して參集せる人々廿二名

中條 惟隆 澤島 政平 西山房次郎
雁住 又朗 鬼塚 茂成 平井 志朗
中村賢之助 山野邊幸家 峯 彌太郎
石川 宗茂 江崎 連 藤 健輔
徳永 喜一 田中 直治 谷口 眞三
松尾兼三郎 山口 政雄 本山 豐治
岡部大次郎 一來 誠一 金子 美重

議事項目

田川 房治
一 事務及會計報告
一 推薦校友ノ件
一 故大隈(侯爵)總長胸像披露並ニ管理ニ關スル件
一 評議員改選ノ件
二 幹事改選ノ件
一 故總長紀念事業ニ關スル件

幹事の松尾兼三郎氏より校友福間俊雄氏死亡につき代表して葬式參列せる件と校友田崎謙貞氏嚴父死亡につき弔電發送を報じ、故大隈總長胸像贈與の顚末を述べ、終つて會計報告をなし滿場承認す。
本會は議事多端にて論議を充分斷すに必要上議長選出を提案し可決。
提案者山野邊幸家氏の指令に基き田中直治氏議長席に就て幹事より一推薦校友候補者田川房治及び武藤誠之の兩君を紹介し且其略歴を述べ、滿場異議なく承認す。

故大隈總長胸像披露につき大隈家より我校友會に贈與の件は先に述べたるより是を略し、其管理を議し、當市に於て目下公會堂建設計劃中なれば夫れ迄縣立圖書館に管理方を依頼し、公會堂建設の上は是を依管せしむ事に可決す。
評議員選舉の件は論議沸騰し決す可くもあらず、遂に投票に問ふ事となり、中澤海知幾氏多數を以て當選せらる。
幹事改選の件は又々議論續出し、

恰も母校の擬國會を聞く如く喧々轟々再選派と改選派に分れ、現幹事辭表提出等あり殺氣堂に溢る、遂に是を起立に問ひ改選派多數を以て改選に決し、詮衡委員十名を挙げ左記五名を選出す。

新幹事

雁住 又朗
峯 彌太郎
三 谷 清一
山口 政雄

常任會計

田中仙之助

故總長紀念事業に關する件は過般母校前田幹事より當縣校友會幹事本山豐治氏宛母校より教授貳名主事一名の一行來る卅日來崎の書狀に接したれば、本會を開催する所以を述べ一同此際母校の爲め應分の援助をなす旨を議決す。
後田中直治氏より過般母校總長葬式參列の概況を述べられ全く散會したるは十一時過頃なりし。(同會幹事報)

青島校友會報告

我青島早稻田大學校友會は毎年春秋二季定期大會其間必要に應じ臨時校友會を開催して、校友相互の親交を計り、海外發展の爲め各自萬丈の氣焔を吐露して、常に和氣霽々として今日に及びしが、今回は特に臨時夏季大會を開催した、(七月一日午後五時開會)會場を青島に於ける眺望、景勝の位地にある三日月温泉(三日月海岸通り)と定む。集まる者左の二十二名、十二分の歡を盡して後、

同校歌を合唱して午後十一時散會す本日左の事項を決議す

一、青島早稻田大學校友會事務所を青島早稻田四番地岩城南會内に置く

一、故大隈侯に紀念事業寄附關する當地委員長に岩城南會主田邊郁太郎氏を滿場異議なく推薦決議す。

一、毎月一回例會を開き會員相互の意見の交換をなす。
尙ほ本日出席者左の如し、

青島商業株式會社 井上 靜樹
中村組 伊佐山 清三郎
青島信託株式會社 速 見 梓
青島地所建物會社 遠 藤 要
岡村法律事務所 岡村 龜太郎

面影

評議員 篠原彌吉氏

新評議員篠原彌吉氏は、元東京專門學校時代、即ち、明治二十九年邦語政治科の出であつて、現に、森村銀行支配人として森村頭取を輔け、行務を統べられ、其の堅實なる經營に依り駭々として該事業の根を張り居らるゝのである。聞く所に據れば氏は其の得業の翌年、恰も故森村翁が企劃で當森村銀行が創設せられたので、金融業に對して特に興味を以て同行に入り、一意自己の本務に缺掌せられ其の實績を見るべきものあり。

一日其の營款に接せんとて、日本橋通一丁目の同銀行に訪ひ、刺を通ずれば、快よく支配人室へと案内された。高壯なる建築物に似ず、室内の裝置は極めて質實で、直ちに奥の

山東新聞社長 川村 倫通
東洋拓殖會社支社 柿 内 靖
大和錢莊 片山 亥六
許斐商店出張所 田中 國隆
青島民政署 田口 豐
開始洋行 武部 精一
岩城南會 田邊 郁太郎
山東鐵道部 對馬 謙三
中川洋行 中川 勝夫
青島取引所 山名 義高
日華商業株式會社 福田 辨次郎
坂梨洋行主 坂梨 繁雄
三榮商事株式會社 佐野 元溫
明治製糖株式會社 白杵 伊三郎
日東棉衣株式會社支社長 鶴原 梅次郎
青島民政署 湯原 桃雄

かしさを感ぜられる。進めらるゝ、一茶を受けて、來旨を述べれば、溫容な態度で、『別に御話する程の事もないのですが、御尋ねになるに任せて申しませう』と、洵に懇懇である。記者は恐縮しながら、後進のために御氣付きの點をと言へば、

『かの徳川家康の訓言が寔に善いと思ひます。即ち、「人の一生は重荷を負ふて遠き道を行くが如し」と云ふて居りますが、實に其の通りである。殊に、最後に「及ばざるは過ぎたるに勝れり」とあるが、これは、特に銀行家等の味ふべきことであると思ふ。一體銀行家は、動もすれば情實のために深入りして想はざるの禍ひを招くことがあり、また、働き手であるとか大資力が在るとかいふことのみを過信して、多大の信用を置く時は、其の結果双方が非常な迷惑を蒙ることが尠なくないのであるから、かかる判斷に當つては充分戒心して進み過ぎぬ様注意せねばならぬ。』

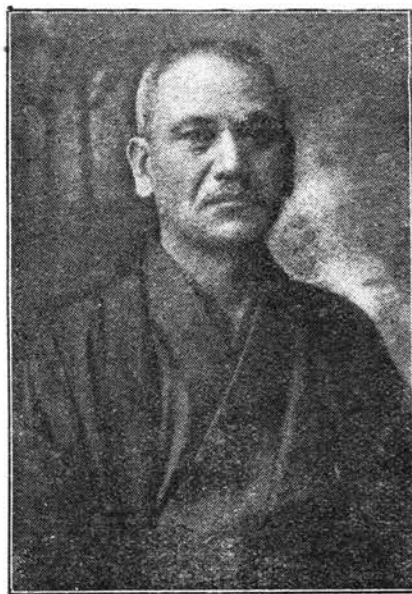
『また、急ぎ過ぎる時は失敗が多いのであるが、我が早稻田出の人にこの傾向があるやうに思はれる固より早稻田は實業界に於て餘程立後れの姿であるから、不斷の奮闘を忘れてはならぬけれども、事業によりては二代も三代もかゝらねば芽の出ぬものもあることを思ひ、五十年六十年の末に肩を並べ

るといふ覺悟で、持久力を以て進むことが必要である。然らざれば却つて無理をして失脚する場合が少なくない。世間では、随分數代もかゝつて築き上げたものを一朝に破滅の悲運に導いた事例は稀でないが、其の多くは、自己等の力を持んで進み過ぎ、又は其の功を急いだことに基因してゐる様である。』

後の土俵際で、致命傷を負ふた人々の少なくないことなどを語られた。猶ほ、經濟界の轉回期、財界盛り立ての方策に就いて窺へば、

『今後持久策を立て得るまでには少なくとも、まだ、二三年の日子を要するものと觀ねばなるまい。其の間餘程の苦境と闘ふの覺悟が必要。』

『恢復策としては、第一に、人の



とて、日露戰爭當時には、一般に經驗家の言を容れて、充分の警戒を怠らなかつたのと、其の期間が短かつたために、財界變動の豫測も比較的容易であつたが、此度の大戦には經驗家を退けて若手を拔擢して仕事をやらせたために手を擴げ過ぎて、收取としざるに到つたことや、好況の時期が長かつたために、一旦手を締めた者までもつい釣ひ込まれて、最

頭が根本的に革まることが肝要である。今日猶ほ、好況時代を夢みてゐたり、又は、無理に好景況を装ふて、空景氣を以て一時を糊塗してゐるやうでは、其の後に、更に怖るべき危機の來ることを想はざるを得ぬ。随つて、かやうな場合には、或る程度まで自然の成行きに任せて、或る時機を見て手を下すの外あるまい。即ち、當然

來るべきものは之を受けて、其處で新たに進む方策を立てるだけの度量と勇氣とが必要である。』

とて、語を強めて、人心緊張の要を切言せられた。

最後に、學校に對する御希望をと言へば、『其の方は、私共の喩を容れる所でないですが』と謙遜せられながら、『この頃は教育界でも餘程注意

して來たやうですが、我々としては、人格者を造ることが最も緊要だと思ふ』と附言せられた。

かくて、其の謹嚴にしてしかも溫情ある風手に接したる記者は、尙ほ幾多の御高話に浴したき希望に満ちつゝ、御繁務中の貴重なる時を徒費せんことを感ふて辭去する事とした。

校 友 動 靜

中野登美雄氏 の 消 息

目下米國より歐洲に渡り留學中の校友中野登美雄氏より五月二十六日發にて瀋陽學長宛の通信ありたるが其の一節に曰く、

小生過日試験も良い成績で無事通過いたしました。論文は先日大學委員會議の席上、總長グッドノー茲に主任教授ウイロービーの推薦で、獨立の著述として大學の費用で、大學から出版される事になりました。日本人としては、小生がはじめてですが、米國人としても大學創立以來此の種の例は十數人を出ないそうです。出版の時期は明年の春頃と承つてゐます。總長並にウイロービー教授は、非常に満足して居られますが、學長の如きは、特に小生を自室に招いて小生のワークを賞讃して呉れました。云々。

羽田智證氏の長逝

六月二十二日前評議員校友羽田智證氏は醫療效なく遂に逝去せられ、二十五日中藏谷の自宅に於て告別式を度修せらる。卒然の訃報に接し、定に哀悼の情に堪へず、茲に謹みて弔意を表す。

業務異動

邦政專政

朝岡鑑(三九)萬壽生命保險株式會社へ入社(市内京橋區三十間堀)
宇高寧(五)康泰合資會社支配人に就任(上海南蘇州路)
豐田兼助(六)古河礦業株式會社神戸支店に轉勤
中村政一(六)府下日暮里町金杉一九二に於て印刷業を開始
宮津儀三郎(九)南滿鐵道株式會社を辭し、島根縣都野津町に歸省

楠五郎(9)大阪毎日新聞社に入社
河原豊(9)鳥取縣農務課事務囑託
となる。
後藤武重(10ノ二)鐵道岡山建設事務所に入る。
山本武(10ノ二)耶馬溪鐵道株式會社社員となる。
井代千代藏(10ノ二)濟生信託株式會社社員となる(神戸市鍛冶町二四)
柴田正雄(10ノ二)第一生命保險相互會社に入社(市内京橋區南傳馬町)
島井原節夫(10ノ二)朝鮮拓殖銀行員となる。

英政大政
奧忠彦(二七)日本銀行出納局長に轉任
本間良太郎(四四)關東機械ナット株式會社に入る。
清田左京(四五)東京市役所地理課に勤務
石田克己(4)旭光商會を開き、護謨及機械の販賣業を營む(大阪市西區京町堀上通四丁目)
廣田俊之助(9)日本郵船會社主計課に入る(市内麴町區有樂町)
大東恒道(10ノ二)大阪貯蓄銀行勤務(大阪府北河内郡東鄉村諸福)
岩本富藏(右同)大阪電氣軌道株式會社員となる。

邦行大法
前生與八(二五)京畿道龍山警察署勤務となる。
橫田宗次郎(三六)愛知新聞編輯局長、兼同新聞社總支配人、名古屋日々新聞主筆となる
森内英太郎(7)富士合資會社に入る(大阪市東區高麗橋二ノ一)
友成保(9)大倉組日本土木株式會社に入社
江口良知(10ノ二)名古屋鐵道局在勤
大文
佐々木護邦(三九)支那天津日本總領事館勤務
延川直臣(三九)長野實科高等女學校へ轉任
渡邊博道(四〇)神戸市立第二高等女學校へ轉任
大久保寛(四二)佐渡高等女學校へ轉任
町田喜三郎(四四)奈良縣立商業學校へ轉任
大藤豊(3)關西學院文學部教授となる。
野中和作(8)福岡縣立八女中學校教諭となる。
塚本威(9)三重縣立志摩水產學校在任

邦法專法
谷村頼尚(三九)株式會社皇國銀行常務取締役となる(市内神田區鍋町)
川崎正太郎(8)大阪市南區内安堂

大商

岡島芳介(四一)京城殖産銀行検査課に入る。
田後作次郎(四二)貝島礦業株式會社桐野炭坑在勤(福岡縣鞍手郡宮田村)

風間忠任(四四)北海道炭礦汽船會社支店員となる。
森田八郎(3)東邦電力株式會社福岡支店に轉勤(福岡市天神町)
橋本清吉(3)川崎銀行八王子支店詰となる。

能任平和(5)市内日本橋區兜町三番地片岡辰次郎商店に入る。
豐田豐吉(6)中華企業株式會社會計課長となる。
橋繁三(6)紅白軒撞球場を開始(市内麻布區三河臺町一三)

小高義一(6)箱根土地株式會社に入る(麴町區有樂町二ノ七)
遠藤智(8)クルシブルスチールカンパニー・オブ・アメリカ日本支社關西地方係主任となる(大阪府外王出町一〇七八)
林勝人(9)元山海岸郵船會社支店員となる。
山口金太郎(9)福島商業銀行勤務となる。
堀越貞彦(10)王子製紙會社東京出張所詰となる。
下郷市造(10)仁壽生命保險會社在勤(市内麴町區内幸町)

伊藤忠夫(10)常磐生命保險株式會社社員となる。
宮本正夫(10)大德合資會社に入る(兵庫縣武庫郡西ノ宮町)
南豐太(10)一年志願兵として廣島步兵第七十一聯隊第一中隊に入營
井上貞次郎(10)株式會社福徳銀行廣尾支店書記となる。
内藤卓之(10)株式會社近江銀行員となる(大阪市東區備後町)
奥田直文(10ノ二)橫濱正金銀行勤務となる。
久保田謙三(10ノ二)東洋紡績株式會社四日市工場勤務となる。
濱地慶彦(10ノ二)外務省囑託として、外務省通商局商報課在勤
小山正次(右同)上毛モスリン株式會社員となる(市内京橋區築地二ノ三)
中村泰(右同)丸善株式會社廣告課に入る(市内日本橋區三丁目)
辻村五兵衛(右同)帝國海上運送火災保險株式會社神戸支店に入る。
三好儀太郎(右同)株式會社三十四銀行京橋支店勤務(市内京橋區)
大瀧武夫(右同)高岡銀行に入る。(高岡市末廣町)
中村直道(右同)攝陽銀行勤務(大阪市東區今橋)
葉山太一(右同)三寶商會員となる
横濱市本町六丁目)
猪狩梯介(右同)株式會社三越吳服店受渡部員となる。

太田富士雄(右同)愛知銀行本店に入る(名古屋市中區玉屋町)
渡邊通(右同)朝鮮總督府專賣局庶務課會計に勤務
寺西鐵三(右同)名古屋銀行東支店勤務(名古屋市中區)
佐原忠雄(右同)南滿鐵株式會社に入る(市内本郷區駒込西片町一〇一ノ二號)
相子基次(右同)名古屋銀行東支店に勤務(名古屋市中區)
白井郁之助(右同)株式會社三菱銀行本店に勤務
松浦春之助(右同)一年志願兵として第三師團第六聯隊第十二中隊に入營
植松忠治(右同)富士製紙株式會社芝川工場勤務(靜岡縣富士郡芝富村)
伊藤信一(右同)服部商事株式會社員となる(名古屋市中區下園町)
池畑不二男(右同)一年志願兵として熊本步兵第二十三聯隊第四中隊に入營
岩田一郎(右同)東洋紡績株式會社知多工場職工係となる(愛知縣半田町)
湯地圭介(右同)東神倉庫株式會社本店員となる。
斧津義孝(右同)東京鐵道局勤務
田中莊二(右同)株式會社松村組本社に勤務(大阪市東區大手通り一ノ二六)
關本貫一(右同)逓信省電氣試驗場第

二部材料係となる。

前田精藏(右同)三重縣宇治山田商業學校に就任

吉田足穂(右同)旭運輸株式會社に入る(名古屋市中區堅三ツ藏町)

理 工

渡邊榮雄(5)鐵道省建設局工事課勤務となる。

大澤源之助(5)東京中村田邊建築課に勤務(市外大森新井宿六七一)

河野重藏(6)青森列車電燈所主任となる(青森市古川町鐵道省官舎)

船橋重次郎(7)船橋電氣製作所經營(市外品川町北品川裏町一六三)

落合定右衛門(9)鐵道省橫川電氣機關庫に轉勤

前川幸一郎(10ノ二)逓信省電氣試驗所第三部に勤務

高 師

川勝虎雄(四〇)福岡縣立八女中學校教諭となる。

久繼敬作(四一)山口縣立周東中學校に轉任

瓜生了觀(四二)富山縣立高岡商業學校教諭となる。

加藤太郎(四二)鹿兒島縣立川内中學校教諭となる。

大角幸次(3)和歌山縣海草中學校に轉任

西村義一(5)熊本縣立商業學校教諭となる。

吉儀彰亮(6)島根縣立松江商業學校に轉勤

松坂辰巳(6)長野縣立長野中學校に轉任。

宮本友三(6)茨城縣立龍ヶ崎中學校に轉任。

井上幸次郎(7)茨城縣立太田中學校教諭となる。

隈部義人(7)兵庫縣立洲本中學校教諭となる。

淺野信政(8)埼玉縣兒玉實科高等女學校に轉任。

吉川東朔(10)富山縣神通中學校に轉任

山口正躬(10)和歌山中學校に新任

推 薦

安原保長(11)甲府土木株式會社常務取締役(山梨縣中巨摩郡大鎌田村)

住所異動

教 職 員

本間久雄(講師)市内小石川區雜司ヶ谷町一四四(電番町一九〇八)

猪俣津南雄(講師)府下代々幡町篠塚一五二

邦政專政

菅間德次郎(一九)橫濱市蒔田町字東谷八六五

高木來喜(三六)長岡市愛宕町丸山宗次郎(三八)旅順市松村町二四ノ一

奧田茂造(四二)府下荏原郡蒲田村御園三〇二

田中重雄(四四)市外大森新井宿子母澤九八四

伊藏基(2)札幌市南一條西五ノ一

福岡正(8)大阪市西成郡玉出町森本眞慧(8)橫濱市南吉田町二三

八 内山靖孝(9)大阪府東成郡任吉村字新開地一二七七小田登方

的場哲(9)廣島縣安佐郡綠井村船越幸四郎(10)市内牛込區神樂町二ノ二

松田義郎(10)市内牛込區馬場下町四一石井方

澤野濟美(10ノ二)松江市雜賀町二ノ三

兒玉桂爾(10)市外田端五七一杉原松之丞(10)市内牛込區辨天町四双葉館

坂井孝三(10ノ二)府下三河島町二六三六相田方

大三川弘之(右同)千葉縣香取郡多古町

藤井堅治(右同)愛知縣碧海郡刈谷町大字小山四二

井上次郎(右同)奈良縣吉野郡川上村大字井戸

綱川文太(右同)栃木縣芳賀郡南高根澤村給部

渡邊繁人(右同)長崎市戸町二ノ一五

木佐信良(右同)京都市上京區東櫻町久我内

平野力三(右同)市外池袋町九三〇

木谷定市(右同)府下豐多摩郡戸塚町下戸塚三八四大倉方

窪田官二郎(右同)三重縣津市丸ノ内殿町六山中方

黒木勇吉(右同)市外下戸塚五七八

松田幸卿(右同)府下大森町不入斗八二八牧野方

中島政直(右同)市内本郷區駒込千駄木町一津田方

式與一(右同)市外雜司ヶ谷八二八中道鐵夫(右同)廣島縣安佐郡祇園

青山松一郎(右同)新潟縣上大川前通六

田上又繁(右同)長崎市下西山町二

栗岡資雄(右同)長崎市西濱町四二

西岡忠市(右同)長野縣下伊那縣松尾村松尾一七九九

安藤芳和(右同)香川縣三豐郡常盤村植田

英政大政

猪股 正己(三九)市内本郷區駒込林町一七七

山田道兄(四〇)市内芝區新櫻田町一九

川口準太郎(四〇)市外西巢鴨町宮仲二二四八

吉村四方海(四一)大阪府東區内久寶寺町四〇四〇

蜂巢義雄(四五)府下下遊谷七六七

深澤正彦(四五)市外下戸塚六二六千代田館

三八

邊渡有仁(5)北海道小樽區綠町一ノ一〇

水川靜一(6)大阪府東成郡天王寺村天王寺一三六九吉田方

横田愛三郎(7)神戸市榮町通二丁目山下汽船鐵業株式會社內

清水源一郎(7)大阪府外岡町伊丹通二丁目

山崎鶴松(8)府下大井町唐塚四九二(四)

速水久彦(8)臺北市大正町二ノ一

伊勢重禮(8)大分縣大分郡鶴崎町岩九方

安食義憲(8)府下高田町鶉山一四九一

松浦九一(9)市外上目黒柳町三三

宿田久一(9)京都市下京區高瀬川筋四條上ル紙屋町三六五

長谷川鎧(10)市内麴町區五番町一八橫山方

山本一(10ノ二)市外戸塚町清水川一二一

小谷精明(右同)熊本市本所町六〇

二 福田良吉(右同)市外西大久保百人町三三三

古林正隆(右同)大阪府北河內郡四條村北條四五

内野寛三(右同)神奈川縣足柄下郡大窪村板橋九三九

野中一鹿(右同)市外西巢鴨町二二八

和田量平(右同)岐阜縣古城郡古川町

邦法專法

江口堂太郎(四三)市内下谷區櫻木町二

福島久記(四五) 24, Place Charlesillo, Paris.

杉浦幸一(三)橫濱市東神奈川浦島町一四四〇鈴木方

大館精一(四)府下瀧野川町田端一九四五

佐藤太郎(五)函館區末廣町一〇八中島榮(七)岡山縣真庭郡中和村

廣渡晴樹(八)福岡縣小倉市堺町圓應寺筋

川本規世志(八)神奈川縣足柄上郡川村向原一九八一

保科市松(九)市内牛込區原町三ノ三〇

笠川正隆(一〇)府下南足立郡千住町千住中組三四五

田原 春次(一〇ノ二)市外下戸塚三五二松島館

寺内太重(一〇ノ二)栃木縣上都賀郡南押原村北赤塚

岡田逸郎(右同)廣島市段原町東浦二ノ一

原正康(右同)府下北豐島郡西巢鴨町池袋二六四

奧田親一(右同)京都府加佐郡中舞鶴町上本町五ノ四一〇

邦行大法

内田竹三郎(三二)京城水標町二二九丸田可平(三四)京都市吉田泉殿町六三

梅川田室(六)京内本郷區駒込神明町二三四

江淵俊秀(七)市内麴町區山元町一ノ五

櫻井省吾(一〇)北海道空知郡美唄七西村定則(一〇ノ二)香川縣綾歌郡造田村一六一〇

雨宮敬作(三六)山梨縣東山梨郡日下部村

多菊祖一(三九)奈良縣丹波市町三島

本山忠治(六)市内深川區東大工町西平野町

大井巖(九)福島縣相馬郡中村町砂子

兼松眞二(一〇ノ二)市外戸塚町下戸塚五三二

久保直枝(四〇)市内本郷區駒込千駄木松五六

高島徹(四二)府下荏原郡入新井町新井宿一三五六

村上知祥(四三)廣島縣御調郡土生町鹽濱

棟井武夫(四四)市内麴町區下六番町三八

河野安通志(四〇)府下荏原郡大井町鹿島谷三〇八二

大文

八木豪(四四)大阪市西區本田通二ノ四五

安積勝三(四四)京都市上京區中立寶通堀川西入

松原淳太郎(四四)兵庫縣西宮町西濱新家二二六〇

栗本吉松(四五)橫濱市子安町一四八五

筒井喜市郎(四五)府下豐多摩郡野方村新井五八二

大宮正隆(二)橫濱市南太田町二〇四四

福武慶作(二)秋田縣土崎港旭町日本石油會社秋田販賣店

稻垣浩(二)府下入新井町新井宿子母澤一〇三九

瀨川甲(二)兵庫縣武庫郡西灘村稗田字長谷場一一六ノ二

富岡龜之助(二)市外千駄ヶ谷町八五六

梶磐(三)名古屋市中區南大津町二ノ三東京電氣株式會社名古屋出張所

服部佑太郎(三)宮崎縣南那珂郡油津町春日町

村上幹二(三)神戶市南本町三丁目一ノ一

岡田正夫(六)福岡縣大牟田市外三河町二一九二ノ二橫尾方

船場保(六)府下西大久保一五〇

宮下英三(六)松本市國府町錢屋支店內

池田益雄(七)大阪市南區天王寺茶田方

白町三七〇五

千葉一郎(八)橫濱市磯子町山田六九一新若尾山九號

大木正(八)市内四谷區麴町一一ノ一五加藤方

田野第五郎(八)市内牛込區原町三ノ二四

岩越五郎(八)府下戸塚町源兵衛五一伊藤方

國光準太(七) c/o Suzuki & Co., 1112 1/2 Main St. Fort Worth, Texas, U.S.A.

齋藤勉(九)府下巢鴨町上駒込山王臺下六三

酒井友太郎(九)大阪府堺市大濱通九三丁目水族館前

笹井衛(九)府下大森山王二六二五梯谷伸吉(九)奉天琴平町八佐々木方

石神壽雄(九)臺灣新竹街東門街三三二

庄司彦男(九)大阪府北河內郡守口町守口二六六

大辻英之助(九)市内神田區南神保町七秋庭方

高橋武之助(一〇)市内麻布區六本木町二〇窪島方

飯田宗治(九)府下大森山王二六九七

高森有吉(一〇)府下南多摩郡忠生村三二四八

二木三良(一〇)京城府日出町二四村田方

南長夫(一〇)神戶市山本通一ノ四一

村田孝好(一〇)府下北豐島郡南千住町七〇ノ一

新谷泰(一〇)山口縣宇部市中宇部七一

園田時亮(一〇)市内四谷區大番所七七內藤方

橫山光雄(一〇)佐賀縣小城市北多久村筋原狩谷炭坑內

飯田憲造(一〇)市内麴町區元園町一ノ三四

小室季敏(一〇)本郷區眞砂町一五

瀨尾俊三(一〇)愛知縣一宮市名古屋銀行一宮支店內

藤田一治(一〇)神戶市東須磨字弓場町五島田方

仲安百之助(一〇)京都府船井郡梅田村水原

小川耕一(一〇)新潟縣古志郡上川西村宮關

水谷治平(一〇)本所區橫網町二ノ一八

澤田弘(一〇)市外下溝谷一八〇九ノ六

伴恒雄(一〇)北海道札幌區南二條西二丁目二四

川島馨(一〇)府下豐多摩郡澁谷町青山南町七ノ一

飯田正操(一〇)市内小石川區下富坂町二〇

大川豐作(一〇)市内牛込早稻田鶴卷町三〇九

植田弘(一〇)府下代々木富ヶ谷一四

九八

清水富久次(10ノ二) 神戸市中山手通六ノ七二

吉岡成弘(10ノ二) 石川縣石川郡美川町

西澤勘三郎(右同) 長野市妻科四五

木谷龍三(10) 香川縣高松市中野町

横田結男(10ノ二) 尼ヶ崎市外小田村長洲西牧方

服部庄三郎(10ノ二) 堺市神明町西二ノ八

庄村銀一(右同) 岐阜縣郡上郡八幡町島谷

春日井寛(右同) 市外中遊谷六二二

松下虎之助(右同) 神戸市宮本通四ノ三七長澤方

出原 良吉(右同) 秋田縣仙北郡横堀村

秋山鹿一(右同) 市外下遊谷三五四

河邊忍(右同) 大分市步兵第七十二聯隊第九中隊

堀常次(右同) 府下品川町南品川宿二二三

小林市治郎(右同) 大阪府泉南郡岸和田町並松町一〇七

元永友助(右同) 山口縣宇部郡川上四八二

西田季雅(右同) 京都市堀川通丸太町上ル水野方

山本忠彦(右同) 市内淺草區南元町四四廣瀬方

前田精藏(右同) 三重縣宇治山田市宇治山田商業學校内

中澤卯吉(10ノ二) 尼ヶ崎市築地北濱一丁目木綿屋商店内

赤沼美三郎(右同) 市内芝區二ノ六入山方

伊藤市介(右同) 市内牛込區早稻田町二八山本方

山崎孝藏(右同) 市内日本橋區新霞町三武州銀行東京支店內

井間一雄(右同) 大阪市東區博勢町三ノ二八

名和野秀雄(右同) 京都市二條通富小路西入

福田義雄(右同) 横濱市相生町五ノ八二福田方

佐久間文郎(右同) 京都市外深草村福稻字開土名古屋銀行寄宿舍内

佐々木東湖(右同) 府下千住町三ノ四

天野直次郎(右同) 市内小石川區小日向水道町九〇

島田桂治(右同) 新潟縣南蒲原野見附町本町二〇

武藏光次(右同) 仙臺市本荒町一九押田方

園田理一(右同) 市内京橋區南傳馬町三丁目星製藥株式會社内

渡邊喜代司(右同) 埼玉縣北埼玉郡新郷村

橋爪文雄(右同) 兵庫縣武庫郡今津町古今津富久屋

齋藤忠信(右同) 市内小石川區表町一〇九

大石武二(右同) 大阪市外鷺洲町大仁森永製菓株式會社内

貞松兼成(10ノ二) 臺北市兒玉町三ノ四軍司令官邸

席丘覺之輔(右同) 市内深川區千田町一八一

中村清一(右同) 廣島市大手町八ノ二二三

岡村義男(右同) 熊本市米屋町一丁目肥後銀行内

金子鐵若(右同) 大阪市南區天王寺寺田町三五九伊藤方

山内英磨(右同) 大阪市東區北濱四ノ四三岩井商店

今里三平(右同) 市内京橋區采女町二二三

梅戸良文(右同) 市外西巢町宮仲一

九一三跡部方

三木德三(右同) 千葉縣市原郡姉崎町姉崎一三二

綾部義一(四五) 府下池袋大原一四

赤司佐一(二) 那覇市松下町一ノ八

黑瀬白(二) 山口縣萩町三九貳

松本猛彦(三) 市外千駄ヶ谷四三三

久保田敬之助(三) 府下青梅町西分金子武(五) 埼玉縣川口町燃料研究所官舎

藤原忠次(六) 京都府深草村西出八

佐藤靜雄(六) 府下目黒一六

渡邊欽二(八) 府下瀧野川町田端八〇増田方

山添章三(九) 大阪中東區内平野町二ノ二二

吉瀬浩(九) 府下中野町中野一八一

築山清(九) 府下淀橋町角管八七九

初谷芳次郎(10ノ二) 京都市上京區聖護院中町洛陽館内

高月環(10ノ二) 滋賀縣伊香郡南富永村高月

河野通彌太(三) 府下代々幡町本村二四四不動前

飯田岩太郎(七) 山形縣新庄中學校内

森崎六雄(七) 大連市寺内通海友會内

横井鏖一(10) 市内牛込區市ヶ谷町七四關口方

關有禪(10ノ二) 神戸市長田町第二中學校内

萩原恭平(右同) 千葉縣大多喜中學校内

川島醇一(右同) 廣島縣福山市野上町藤沼方

若松美代治(右同) 鹿兒島縣日置郡西市來村湊町六三

千家尊弘(11) 市内麻布區霞町六

佐伯叔作(11) 牛込區矢來町一一一

馬場平二郎(五) 大政 歐米出張中の

處、無事歸朝の上、府下八王子寺町五六に居住。

改 姓 名

平木政彦(二專政) 福本と改姓

内田友三(七) 大政 岩崎と改姓

横溝董一(三八專法) 直也と改名

八木善太郎(七專法) 武田と改姓

武市長次郎(五大商) 小野木と改姓

福里次作(五大商) 松田と改姓

大正六年度專門部政治經濟科得業

(大正十一年七月十二日逝去)

山口 成孝氏

大正九年度大學部政治經濟科得業

(大正十一年三月十八日逝去)

百武 辰次氏

明治四十二年大學部政治經濟科得業

(大正十年逝去)

長岡 省吾氏

明治二十九年文學科得業

(大正十一年七月十四日逝去)

林田源太郎氏

大正九年度大學部商科得業

(大正十年三月二日逝去)

杉浦 光一氏

大正四年度理工科探礦冶金科得業

(大正十一年六月二十日逝去)

朝日 貫一氏

洋 行 及 歸 朝

馬場平二郎(五) 大政 歐米出張中の

大正八年度理工科機械工學科得業
(大正十一年七月二日逝去)
米倉三四郎氏

大正十年度高等師範部國語漢文科得業
(大正十一年七月三日逝去)
山崎福太郎氏

右諸氏の訃報に接し洵に哀悼の情に堪へず、茲に謹みて弔意を表す
大正十一年八月十日
早稲田大學校友會

學會々々合

◎高等學院英語科教授談話會

第一第二早稻田高等學院に於て英語科擔任の教授講師の數は目下二十四名あるが、未だ其間互に懇親を結び、依つて以つて教授乃至研究上隔意なき互の意見を交換すべき會の無いのを遺憾とし、今回勝俣銓吉郎、中村仲、上井磯吉、山崎貞四氏の發企で學英會 (適當の名が見附らぬので暫く此儘にする事にした) が組織され、其第一回を六月十七日 (土) 午後零時半から第一學院會議室に開いた。當日集つた會員は右發企四氏の外

- 石井 信二 飯田 敏雄 岡村 千曳
- 谷崎 精二 高谷實太郎 中桐確太郎
- 梅若誠太郎 矢口 達 増田 鋼
- 深澤由次郎 會津 常治 佐久間 原
- 光井武八郎 繁野 政瑞 定金右源二
- 野々村成三

勝俣氏の挨拶の後各自の五分間演説に入り、終つて多讀と精讀の適當な按配并に指導方針、他官公私立高等專門學校生徒と本學院生徒との長所短所に關する比較や感想、英文文の教授に關する意見、教授室に備へ附くべき參考書、外國の新聞雜誌等に關する希望等諸種の方面に互つて各々の隔意なき意見や感想談に花を咲かせて、散會したのは五時少し過ぎる頃であつた。尚ほ本會は毎月一回づ、開催の事にし、會員各自輪番に當番幹事を務め、他に常任幹事一名を置く事になり、上井氏が其選に當つた。

學英會第二回開談會

七月五日 (水) 學院第一學期授業最終日の午後三時半から第一學院會議室に於て第二回學英會を開く。當番幹事飯田敏雄、岡村千曳兩氏。出席會員は右幹事の外
石井 眞峰 大久保常正 勝俣銓吉郎

中村 仲 梅若誠太郎 上井 磯吉
久松 廉 増田 綱イエスケート
古橋 顯理 會津 常治 光井武八郎
宮島新三郎 繁野 政瑞 定金右源二
の十五氏。岡村氏挨拶の後、勝俣氏の「知識の蒐集及び其整理法」に就き同氏多年實行のノートブック主義に關する興味ある話、尚ほエヂイスンと notion book を持つてゐて絶えず何か新しい考へが浮ぶと直ぐそれに書込む習慣がある、そのノーションブックが今では隨分の數に上つてゐるので、之によつて大發明に達する迄の経路がよく解るとの事を讀んで、ノートブック主義は愚鈍なものの、みの習慣でないと思ひ嬉しく思つた、云々。との話があつてそれより會員各自の詩作や小説等の創作氣分談となり氣焰や趣味談やに時の過ぐるのを忘れた。五時夕食を共にし六時前解散。

◎英文學會

英文學會第六回例會を、六月二十六日午後三時から恩賜館第二會議室に開きました。突然の催しで、しかも多忙な頃であつたにも拘らず、先生始め多數出席しまして、なか／＼の盛會でした。

- 享樂主義者、メリウスに就いて
- 二年 工藤 好美君
- 藝術鑑賞について
- 桶口 國登先生
- 詩朗讀 一年 衣卷 省三君
- スタイアンソンに就いて

脚本朗讀 飯田 敏雄先生 一年 佐野 恒一君
一年 藤井 一郎君
其の他三名
所感 三年 前田 泰次君
最近の感想 吉田源次郎先生
片上 伸先生
挨拶 横山 有策先生
挨拶並びに英詩朗讀

◎經濟學會事業報告

昨年以來漸く活動期に入つた當學會は、先學期修了と共に本年度の幹事改選を行ひ、次の六名が幹事の職に就く事となつた。

- 専法二年 赤羽豐次郎
 - 大政二年 足立 綱彦
 - 專商三年 横島三之助
 - 大商二年 A組 柴田 安美
 - B組 小關 久
 - D組 小島彌一郎 (再任)
- 試験修了の翌日、即ち三月十六日第一回幹事會を開き、本學年に於ける事業方針を確定し、始業式に之を發表すると共に大々的に會員募集を行ひ、更に、昨年に倍加せる活動を開始したのである。小林先生、出井先生は、昨年より引き続き本會講師としてお願ひ致し、又新に島田、小林、新齊先生等新進の講師をも招聘し、本會員諸君の研究に資する所大ならしめんとした。本學年に於ける

事業は左の如くである。

- マーシャル・インダストリエンドツレイ
 - イングラム・ヒストリー・オブポリチカル・エコノミー 小林副會長
 - 世界各國ノ交通政策 出井先生
 - ビズネス・リサーチ 島田先生
 - その他毎月約三回の豫定を以て、學者及び實業家を招聘して、普遍的研究に資すべき特別講演を開催し、又時々市内外の大工場に見學して、實際的知識を得るに努力した。
 - 左に特別講師及び演題を擧げる。
一、消費組合と生産組合 商大教授上田貞次郎氏
二、我國資本主義の起原 本大學教授佐野學氏
三、歐米に於ける金融狀態 横濱正金銀行副總裁 一宮鈴太郎氏
四、ジョン・スチュアート・ミルの社會思想 帝大教授 河合榮次郎氏
五、理想と象徵としてのモリスと、ハインドマン 本大學教授 北澤新次郎氏
六、アドマスミスの自愛主義の哲學的基礎 慶大教授 三邊 金三氏
- 等である。この他見學部では印刷局エビスビル工場及び東京毛織會社王子工場等を見學した。かゝる事業の發表毎に會員は増加し、本日に於てはその數實に三百名を數ふるに到り、實に、本會創立以

來未曾有の盛大を呈せるものである
而して是等三百名の會員は何れも勤
勉にして眞理を求むるに忠なる學徒
であるが、しかし、本會はその現状
を以て、満足しないで、一段の努力
を以て本會に多大の同情と援助を寄
せらるゝ先輩諸彦に報ゆる所あらん
事を期してゐる。

◎政治學會十年度事業 報告

五月廿一日本會創立十週年紀念大
講演會を政治科廿番教室に開催す。
當日は未曾有の盛會にて、聴衆堂に
溢る。其のプログラム左の如し。

開會ノ辭 石塚 一雄君
挨拶 會長 磯澤 昌貞先生
政治的常識ノ要義 杉山 重義先生
近世代議制度ノ起源ニ就テ 高橋 清吉先生

首府問題ニ付テ

東京市助役 池田 宏先生
拾週年紀念ニ際シ 先輩 志手 環氏

團體自決意識ト直接行動

閉會ノ辭 大山 郁夫先生
阿部 勇君

閉會後講師室に於て懇親會を開き並
せて會則變更の事を議す、出席者芳
名左の如し。

大山郁夫先生、高橋清吉先生、先輩藤
川年氏、志手環氏
幹事天川信雄君、榊田直人君、吉松虎
暢君、阿部勇君、鈴木宇市君、石塚一
雄君

大正十年十月廿九日(土)午後二時よ
り恩賜館會議室に於て研究報告會を
開く。會する者約廿名、報告者左の
如し。

議會政治ノ永續性ヲ論ズ

大政三 石塚 一雄君
政黨政治改進論 事政三 野田 兵一君

右研究發表後、約一時間に渡り大山
郁夫先生の懇切なる講評あり、五時
散會す。

政治學會々計

大正十年五月廿一日本會創立十週
年紀念講演會後、懇切會席上に於け
る教授校友幹事の決議に依り、本會
維持費は校友會員より年額金壹圓の
釀出を請ひ之れに當つることとせり。
大正十年度維持費寄贈者芳名左の如
し

金五圓也	磯澤 昌貞先生
金壹圓也	高橋 清吉先生
金壹圓也	大山 郁夫先生
金壹圓也	五來 欣造先生
金壹圓也	齋藤 健三氏
金壹圓也	志手 環氏
金壹圓也	齋藤三雅男氏
金壹圓也	堀尾 義貫氏
金壹圓也	吉田治三郎氏
金壹圓也	寺澤 辰二氏
金壹圓也	市來 大助氏
金壹圓也	西 義顯氏
金壹圓也	倉住 覺藏氏
金壹圓也	木内義太郎氏
金壹圓也	久保田明光氏

合計參拾貳圓也

右寄贈者諸氏に對し深く感謝の意を
表す。(石塚一雄報)

◎雄弁會春季大會

六月十七日(土)午後一時より大講
堂に於て雄辯會春季大會を開催す。
此日霖雨漸く霽れて聴衆堂に滿ち壇
上と俱に壇下の雄辯は盛に猛威を逞
しうして近來になき快舉であつた。
プログラム左の如し。

開會之辭 大政三 西村吉太郎君

牛耳る者は? 大政一 乾 鐵應君

空虛なる城壁 專法二 田村 勘次君

憲政黨道の逆轉と其責任 事政一 馬郡健次郎君

苦悶の人生 高等學院 酒枝 義旗君

十字街路に立てる民衆へ 大政三 木村 皓一君

感するまゝに 大政三 淺沼稻次郎君

人間苦とプロレタリア藝術 大政三 島田 義文君

ルソーの自然への復歸說と新社會の暗
示 大政一 牛田 年憲君

勞働科學の確立 大政三 角田 耕一君

智識崇拜概念の崩壞 會長 大山郁夫先生

青年帝國建設論 事政三 小林美樹雄君

唯物史觀より見たる農村問題 大政三 森崎 源吉君

閉會之辭 別政三 石塚 一雄君

閉會後三朝庵に於て懇親會を開き歡
を盡して八時散會す。

更に六月廿七日京都岡崎公會堂に
開催する立命館大學主催昇格紀念全
國學生雄辯大會へ左記辯士を派遣

す、『赤土の幻影に絡れる者の悩み』
大政三 西村吉太郎君

學生記事

◎學生委員會

六月二十三日正午より、各部科學
生委員參百有餘名を講堂に會して、
高田紀念事業委員長より學生の紀念
事業に對する美譽及び其の好意を深
謝し、併せて、該事業必成のために
一段の努力を懇望せられたり。

◎早大横濱會春季總會

早大横濱會は五月二十日午後六時
より横濱公園前YMCAの會館に於
て春季總會を開き會員の親睦を厚う
し、新入會員の歡迎のため互に打ち
解けて懇談した、會者八十餘名極め
て懐かしい楽しい集ひであつた。尙
又二十六日には同所に於て同會幹事
の總會を開き種々協議する所があつ
た。

◎劍道部東北北海道遠征 記事

五月廿一日 水産講習所に於ける
東京學生劍道聯合大會に出席、一同
善戦して早稻田の爲に萬丈の氣を吐
く。其夜直ちに上野驛に集り、豫定
の如く斯道鼓吹のため遠く東北北海
道遠征の途につく。即ち一行は師範
高野茂義氏、部員今井三段以下高段

者八名。夜十時高野佐三郎師範を初
め校友部員多數及び慶大選手諸君等
の見送りを受け、意氣天を衝きて出
發す。

五月廿二日 盛岡驛にて青森武德
殿よりは是非との招聘の電報を受けた
るを以て、青森武德殿に行き、四時
より六時半迄、中學、師範の生徒其
他有志多數と猛烈なる稽古を爲す。
後、早大校友並に武德會の一行のた
めに開かれたる歡迎會に出席し、西
洋料理に舌鼓を打ち、校歌「都の西
北」合唱の後解散。

主催者宮川義令氏。山田金次郎氏
和田喜太郎氏、佐々木新七氏。西村
弘毅氏。神正廣氏其他。

直ちに青森港に至り十一時の連絡
船伏木丸に乗込み、一同まどらかな
夢を結ぶ。波は物凄く船腹を洗ひ、
星影をひそむ。

五月廿三日 紅盤海より起り、光
矢八方に放たれ、壯嚴の中に足は蝦
夷地を踏み、湯の川根崎温泉にして
遠征以來初めて浴衣を着る。午後一
時五稜廓を見て維新當時を偲び直ち
に函館中學に至る。校友の教諭も三
名おられるとき、午後三時より中

學、商業、監獄の劍士と一通り、稽古して後茶菓の饗應を受けて辭す。東都を出る時春既に去りて新緑の候なりしに此地は櫻花爛漫と咲き、鈴蘭の香野に溢る。十一時多數の見送りを受けて小樽へと向ふ。

五月廿四日 汽車は荒涼たる原野の中や白樺の林の間を縫ふて午前九時五十分小樽驛に若し、大泉旅館に旅装を解く、間もなく廳商の懇望により道場にて愉快なる稽古をす。

廳商は昨秋吾が早稲田大學主催の全國中等學校大會に於て優勝せし學校なり。晝食の饗應を受けて一同玄關の櫻花の中に於て紀念撮影をなし。直ぐ上なる高商道場に至る。風光絶佳にして小樽港を瞰下す。高商の望により自己審判の二本勝負の後猛烈なる稽古をなす。高野師範の例の稽古の後茶話會に臨み後歸宿す。

五月廿五日 市中を見物せしが市中の發達せる事又港の立派なるに驚く。先を急ぐ遠征なれば、惜しき別を此の街に告げて、十二時札幌に向ひ、山形屋旅館に入り、三時より農大道場にて稽古す。

來るもの中學、師範所謂全札幌にて猛烈なる事遠征以來第一なり、選手一同玉なす汗にも關らず、勇ましく早大の爲に氣を吐く。稽古後八名の師範と稽古し、高野師範の稽古ありて六時に終り、同校武道部のホールにて本場札幌ビールの馳走になり

て歸館す。間もなく農大生の來り迎へて農大劍道部、校友會の歡迎會に臨みて痛快に過す。

五月廿六日 農大の醫學博士及び農大生の案内にて名物の幌馬車に分乗して水の都、森の都を見物す、植物園にてエルムの梢高く天を摩する景色を眺め、ボブラの並木を横ぎつて圓山公園を訪れ、又有名なる中島公園の舟遊びを見て、十一時校友、師範諸氏、農大中學の諸君に送られて出發す。

遠く樽前噴火山の煙の空にたなびくを見つ、所々に牛馬の遊ぶ外、滿目荒涼として眼を遮るものもなし或は校歌を唱ひ、或は腕を抱して天を仰ぐ岩見澤で乗換へて室蘭行きに乗る、北海の海の岸を洗ふあたりにアイヌ部落散見してあり。恰も部落の小學校の運動會にしてアイヌ人の吾等の汽車に乗る者ありて初めて刺青せる女を見たり。五時登別驛に到着し、輕便鐵道により溫泉場に迎ふ六時到着、第一瀧本旅館に旅装を解き、直ちに地獄谷、大湯沼等を見物して歸館し、疲れを心地よき湯に癒す。

五月廿七日 室蘭中學との仕合を以て北海の地を辭し、一行は青森行の京城丸に乘込み東北地方に向ふ。船中風激しく波高し。

五月廿八日 午前五時青森入港直ちに盛岡行に乗り十二時半盛岡驛に到る、武徳殿に行く、途中有名なる石割櫻を見る。二時より五時迄武徳會の劍士、高農、師範中學六十名と猛烈なる稽古をし、後山口氏外六名の師範に稽古を願ひ、高野師範の例の妙技の有志稽古ありて終り、茶話會が直ちに開かる、これより、盛岡城址を見て遠く安部貞任の衣の館を臨み、校友主催の歡迎會に出席す。

北上川の岸の清遊軒で先輩に昔の早稲田の有様を聞き、余等現在の早稲田を話し、胸襟を開いて愉快な雰圍氣の中に快く會談し、了りて十一時過の汽車で仙臺に向つて出發す。

五月廿九日 午前四時松島驛に下車す、師範と今井君は仙臺に向へり。一行は松島海岸の名所を見物して後和船を雇ひて島々の風光を觀賞しつ、鹽釜に至り午前十時鹽釜神社に參拜して休息す。續いて仙臺に至り直ちに武徳殿に入りて休息す。稽古は午後四時より武徳會講習生、二高生中學、聯隊、警察等より集るもの七十名。選手は最終の稽古なればラストヘビーで猛烈、勇敢に稽古す。相浦君山口先輩と共に稽古せらる。

最後に一行は沼倉竹内他四名の師範に稽古を願ひ、高野先生に對する有志稽古ありて終れり。茶菓の饗應を受けて後加瀬谷君の親戚の増子氏の饗を受けて、後一行紀念撮影をなす、興談館に泊る。

五月卅日 八時の汽車で仙臺を去る。廿一日出發以來九日各地に轉戦し、遠くは蝦夷平原を席捲し、今や青葉城下に凱歌を奏す。流石の連中も氣の緩みしにや身體の節々倦れたればとて聲城の湯本溫泉松柏館に投宿す。何の屈托もなく湯に浸つたり互に會談したり、遠征中の思出等を記して靜かに日は落ちた。

五月卅一日 八時五十分かの汽車で湯本驛を發し上野に向つて出發せり。清遊によつて身心の疲も癒され一同元氣よく上野驛に到着せしは午後四時なりき。余等一行は此の遠征にて豫想以上の効果を收め得たる事を喜び、此處に散會して雨中家路につけり。

終りに各地に在つて本部遠征軍の爲に御多忙中にも拘らず、種々御厚情を賜はりし先輩諸兄各學校劍道部關係諸氏及び選手諸君に深謝す。終りに一行の姓名を記せん。

- 師範 高野 茂義 選手 今井 歸一
- 選手 岩田 繁三 選手 加瀬谷 文夫
- 選手 星野 中平 選手 宮口 剛
- 選手 清野 浩 選手 高木 保
- 選手 神水 正雄 以上(委員記)

校外教育部消息

出張講演

本年夏季各地方に開催さる、講習會に向け本大學校外教育部より講師出張に決せるもの左の如し。

一 高知縣高岡郡教育會主催
期間 七月廿九日より三十一日迄三日間
講師 本大學教授 志賀重昂
二 青森市十日會主催
期間 八月一日より五日迄五日間

1、家族制度の延長
2、巨石文化日本
3、人類の進化
講師 本大學講師 西村真次
三 京都府何鹿郡教育會主催
期間 八月三日より七日迄五日間

演題 近世社會思想史論
講師 本大學教授 北澤新次郎
四 山口縣女子師範學校主催
期間 八月中旬數日間
演題 極東外交を中心とせる列強大勢
講師 本大學教授 青柳篤恒
五 埼玉縣入間郡教育會主催
期間 八月四日より五日迄二日間

演題 大戰後の世界文化の趨勢
講師 本大學教授内ヶ崎作三郎
六 福井縣大野郡教育會主催
期間 八月五日より九月迄五日間

演題 文章論
講師 本大學教授 五十嵐力

七 岡山縣淺口郡教友會主催

期間 八月七日より八日迄二日間

講師 本大學教授内ヶ崎作三郎

八 朝鮮大邱府朝鮮民報社主催

期間 八月七日より九日迄三日間

講師 本大學教授内ヶ崎作三郎

九 鳥取縣西伯郡教育會主催

期間 八月十三日より十五日迄三日間

講師 本大學教授 帆足理一郎

演題 教育の革新

講師 本大學教授 杉森孝次郎

一〇 鳥取縣八頭郡教育會主催

期間 八月十六日より十八日迄三日間

講師 本大學教授 杉森孝次郎

演題 現今社會問題の原則的考察

講師 本大學教授 杉森孝次郎

一一 宇都宮市野州新聞社主催

期間 八月二十日

講師 本大學教授 高橋清吾

一二 廣島縣山縣郡小學校教員年次練習會主催

期間 八月二十三日より二十七日迄五日間

講師 本大學教授 内ヶ崎作三郎

一三 秋田縣鹿角郡教育會主催

期間 八月二十六日より三十一日間

日迄六日間

演題 社會倫理の基礎

講師 本大學教授 大山郁夫

雜錄

記念事業に關して

教職員に依頼

六月二十六日午後一時、高田記念事業委員長は、教授講師三十四名を應接室に會して、記念事業に關して地方講演等を懇囑せらるゝ所ありたり。

六月二十九日午後一時、高田委員長は、記念事業に關して地方に派遣の職員一同を會して、充分の努力を請はれたり。

平沼理事の退院

久しく帝國大學病院に入りて加療中なりし平沼理事は、漸次快方に向ひ、七月二十四日退院せられ、自宅に於て靜養さるゝ事となれり。

田中理事の退院

田中理事は、過般來千葉病院に入りて治療中の處、其の後の経過良好にして退院せられ、目下自宅療養中なるが、近々輕井澤に赴き靜養せらるべしと。

故阪田博士の肖像額

故理工學部機械學科顧問坂田貞一博士の肖像額は、高等學院講師ヲロ

演題 現今社會問題の原則的考察

講師 本大學教授 杉森孝次郎

錄

イドル・スベルゲル氏に依頼したりしが、這般其の揮毫漸く成り、之を恩賜館内の一室に裝置することとなり。

中村志賀兩教授の送別會

七月十日夕刻永樂俱樂部にて、學術觀察のために歐米に向はる、法學博士中村進午氏並に南米ブラジル政府の建國五十年祝典に列席せらるゝ、教授志賀重昂氏のために送別會を催す。出席者五十餘名、席上高田名譽學長より挨拶あり、之に應へて兩教授謝辭を述べられ、一同歡を盡して九時過散會。

故總長大隈侯爵記念事業資金申込芳名

東京 (申込順)

金壹百圓 齊藤時之助殿
金參拾圓 田中 晉吉殿
金參拾圓 武田 信敏殿
金參拾圓 關根 富雄殿
金參拾圓 伊藤 十郎殿
金參拾圓 水野 純一殿

金拾圓	山田德四郎殿	金貳拾圓	青山 靜英殿
金拾圓	中路 兵束殿	金五拾圓	宮坂 庸三殿
金拾圓	竹内宮五郎殿	金四拾五圓	池之上哲夫殿
金五圓	伊吹勇次郎殿	金參拾圓	森田勢一郎殿
金貳百圓	太田 精一殿	金貳拾圓	三宅 忠治殿
金壹百圓	太田 一郎殿	金壹百圓	堀江 武治殿
金壹百圓	都築 謙雄殿	金壹萬圓	山本 忠興殿
金壹百圓	黒川兼三郎殿		小穴 秀一殿
金壹百圓	新井 忠吉殿		川原田政太郎殿
金壹百圓	山ノ内 弘殿	金壹百五十拾圓	佐々木春彦殿
金壹百圓	村田榮太郎殿	金五拾圓	石川 重材殿
金壹百圓	師岡 委磨殿	金五拾圓	向井 長民殿
金壹百圓	鹽澤 正一殿	金五拾圓	水間 英之殿
金壹百圓	伊原 貞敏殿	金五拾圓	竹内 半一殿
金壹百圓	藤井鹿三郎殿	金五拾圓	光富 英雄殿
金壹百圓	鈴木 德藏殿	金五拾圓	守谷 巖殿
金壹百圓	三宅 當時殿	金五拾圓	花井 貞造殿
金貳百圓	永井 清志殿	金壹百圓	野村 堅殿
金壹百圓	矢橋 潤二殿	金五拾圓	飯島 德次殿
金壹百圓	隨行 琢三殿	金五拾圓	須藤 哲二殿
金壹百圓	岸田惠太郎殿	金壹百圓	高橋 文吉殿
金壹百圓	柳澤 文三殿	金貳百圓	佐久間 厚殿
金五拾圓	曾根 繁殿	金壹百圓	河原田稼吉殿
金五拾圓	島中勝四郎殿	金參拾圓	中村 義雄殿
金壹百圓	伊藤 博文殿	金參拾圓	川口準太郎殿
金五拾圓	遠田 孝三殿	金參拾圓	野中 一鹿殿
金壹百圓	齋藤 忠藏殿	金壹百圓	笠原道太郎殿
金四拾五圓	鷹野 安之殿	金拾圓	井桁 三藏殿
金參拾圓	毛利 崇廣殿	金五百圓	杉山 重藏殿
金貳拾圓	大原 泰藏殿	金五千圓	中川 末吉殿
金貳拾圓	安食 義憲殿	金壹百圓	仲宗根玄愷殿
金貳拾圓	花田 金作殿	金參百貳拾四圓	能村 千別殿
金拾圓	櫻井六一郎殿	金五拾圓	江澤 善二殿

金貳拾圓	佐々木道治殿	金壹百五十圓	白石 實三殿	金貳百圓	久保 義美殿	金五圓	近藤勘太郎殿	金參圓	神崎 庄輔殿
金貳拾圓	筒井仙太郎殿	金壹百五十圓	岡村 千秋殿	金貳百圓	菊地三九郎殿	金參拾六圓	山田 節殿	金壹圓	沼田 梅子殿
金五拾圓	柴田彌之助殿	金壹百五十圓	森下岩太郎殿	金拾圓	長田 廣吉殿	金壹百圓	室町 三郎殿	金壹圓	大下 積殿
金壹百圓	加藤 秀雄殿	金壹百圓	高信喜代松殿	金四拾八圓	楠美理三郎殿	金拾圓	服部外太郎殿	金壹圓	石田平之助殿
金六拾圓	高室九兵衛殿	金八拾圓	長谷川浩三殿	金六拾圓	奈良 久助殿	金參百圓	中村 進午殿	金壹圓	磯ヶ谷豊吉殿
金六拾圓	古澤 貞造殿	金六拾圓	高橋 橘郎殿	金五拾圓	高橋德治郎殿	金壹百圓	柴田 兼吉殿	金貳百圓	畑 竹次郎殿
金壹萬圓	日清印刷株式會社殿	金六拾圓	石川甚右衛門殿	金五拾圓	山内 千秋殿	金拾圓	廣瀬 忠義殿	金壹百圓	藤井 英造殿
金六拾圓	八田 喜三殿	金參百圓	河野 助人殿	金拾貳圓	金子 清光殿	金參百圓	北澤 武男殿	金貳拾圓	勝 勉殿
金拾圓	古井 政藏殿	金參百圓	廣田 光威殿	金五拾圓	建村 寛戈殿	金參拾圓	椎木 順一殿	金貳拾圓	尾澤平一郎殿
金參拾圓	齋藤 四郎殿	金貳百圓	山口 達殿	金壹百圓	川島梅太郎殿	金壹百圓	高木 登殿	金五拾圓	小口 友幸殿
金拾圓	稻垣 浩殿	金六拾圓	岡 直二殿	金五拾圓	佐野 蛟殿	金參千圓	齋藤和太郎殿	金五拾圓	田村卓五郎殿
金貳拾圓	伊藤 周郎殿	金六拾圓	中澤規矩夫殿	金五拾圓	關 英一郎殿	金五拾圓	諸富 一殿	金拾圓	稻葉 亮殿
金貳拾圓	木下 貞一殿	金五拾圓	宮本 俊三殿	金參拾六圓	長行事重吉殿	金貳拾圓	伊木龜太郎殿	金參拾圓	柴崎 市郎殿
金參百圓	田中小太郎殿	金四拾圓	土屋 功殿	金四拾圓	荒井 鑑一殿	金貳拾圓	宮本竹次郎殿	金貳拾五圓	安藤榮次郎殿
金壹百圓	萩本 文海殿	金參百圓	阿部 又市殿	金八拾圓	野村 小作殿	金拾圓	細野 積藏殿	金壹百圓	森下淳辭明殿
金貳圓	有馬敬之助殿	金參百圓	渡邊八太郎殿	金壹百圓	猪又辰太郎殿	金六拾圓	永瀬 博殿	金壹圓	武藤 光稱殿
金參拾圓	佐々木 實殿	金壹百圓	藤本 慶祐殿	金六拾圓	松島快治郎殿	金六拾圓	西村 晴雄殿	金五圓	磯部 俊三殿
金貳拾圓	吉田 三郎殿	金貳萬圓	工手學校生徒一同殿	金七拾圓	豐島 金松殿	金六拾圓	加藤 信一殿	金參圓	宮地 末藏殿
金貳拾圓	大木 正殿	金壹百圓	高橋 勇殿	金壹百圓	島 庄一郎殿	金六拾圓	石井 佐仲殿	金壹圓	吉原 文貴殿
金參拾圓	堀川 直吉殿	金壹百圓	荒井 惟俊殿	金六拾圓	土岐 秀顯殿	金六拾圓	飯岡藤三郎殿	金壹圓	谷田部甲子藏殿
金五拾圓	松岡 佳文殿	金壹百圓	足利於菟丸殿	金五拾圓	高田 忠作殿	金六拾圓	増田四一郎殿	金五圓	中村 壽子殿
金壹百圓	井芹 繼志殿	金四百圓	氏家 謙曹殿	金貳拾八圓	山本清五郎殿	金六拾圓	福富 源一殿	金壹圓	西川清太郎殿
金參百圓	東 洋 會殿	金參百圓	冲 巖殿	金貳拾五圓	山本 要作殿	金五拾圓	金井 梯藏殿	金壹百圓	志水 直彦殿
金壹圓	反町 茂作殿	金貳百圓	渡邊寅次郎殿	金拾圓	吉岡 長吉殿	金拾圓	高月重雄子殿	金貳圓	宮坂 忠亮殿
金壹百圓	佐藤 三郎殿	金壹百圓	勝田 一殿	金六圓	加藤 岩一殿	金貳百圓	岡 次郎殿	金壹百圓	深田米次郎殿
金參拾圓	高倉 忍殿	金六拾圓	岩崎 吉勝殿	金五拾圓	齋藤 七三殿	金壹百圓	野村長太郎殿	金五拾圓	出雲井忠明殿
金貳拾圓	影山 清雄殿	金九圓	廣川新十郎殿	金參拾圓	石田 傳殿	金五拾圓	桑原 熊吉殿	金壹圓	松坂 優殿
金五百圓	坪谷善四郎殿	金四拾八圓	山本 彬一殿	金貳拾五圓	木村 專一殿	金五圓	中村庄五郎殿	金五圓	内野 亮助殿
金六百圓	長谷川識也殿	金五百圓	内ヶ崎作三郎殿	金拾圓	川崎 芳松殿	金貳拾圓	篠原 熨殿	金壹圓	上浦 要殿
金貳百圓	中山 太郎殿	金參百圓	小林 又七殿	金貳拾圓	小泉 留吉殿	金參拾圓	安井 兼吉殿	金拾圓	今村 與作殿
金貳百圓	鈴木德太郎殿	金參百圓	山澤 俊夫殿	金參拾六圓	有本辰之助殿	金壹拾圓	柴田 忠德殿	金貳拾圓	清水 秀雄殿
金壹百八拾圓	須藤 莊一殿	金五拾圓	中澤榮七郎殿	金五圓	松尾幾之助殿	金壹百圓	若槻禮次郎殿	金拾圓	若木 とみ殿
金壹百八拾圓	濱田德太郎殿	金五拾圓	村上 德定殿	金貳圓	久村 乙一殿	金壹圓	橋本半次郎殿	金貳拾圓	鶴田 明殿

金五圓	牛込 新造殿	金七拾五圓	和田 義親殿	金參拾圓	渡邊 則正殿	金五圓	阿部 俊市殿	埼玉縣	金壹圓拾錢	大島 要作殿
金貳圓	福島 一和殿	金拾貳圓	吉田 春福殿	金參拾圓	中村 敏一殿	金拾圓	手塚 猛昌殿	埼玉縣	金貳拾圓	渡邊喜代司殿
金貳圓	磯部福太郎殿	金拾圓	中島勝之輔殿	金九拾圓	田村壯次郎殿	金五圓	加藤貞次郎殿	埼玉縣	金貳拾圓	林 吉五郎殿
金壹圓	吉川 泰長殿	金貳百圓	小久江貞雄殿	金五拾圓	內田 義三殿	金七拾圓	須田 正二殿	埼玉縣	金壹百圓	
金壹圓	鈴木 曄殿	金壹百圓	藥田欽次郎殿	金六拾圓	青木 茂殿	金五圓	川野 夾殿	埼玉縣	埼玉縣	
金壹圓	松江 外三殿	金壹圓	稻瀬 政治殿	金五拾圓	德山 定吉殿	東京累計		埼玉縣	埼玉縣	
金貳圓	田島清太郎殿	金參拾六圓	半澤 正吉殿	金五拾圓	江川 銀藏殿	金參拾萬參百四拾七圓九拾錢也		茨城縣	金壹百貳拾壹圓拾錢也	
金參圓	北村 秀雄殿	金參拾六圓	池田 重男殿	金五拾圓	森田 勝祐殿			茨城縣	金五拾圓	平岡 伴一殿
金貳圓	北村 商店員一同殿	金五拾圓	堀内甲子太郎殿	金五拾圓	森 八郎殿			茨城縣	金貳拾圓	濱名 蜂吉殿
金五圓	財部次三郎殿	金五拾圓	竹村 佳康殿	金參拾圓	森口三代次殿			茨城縣	金五圓	職員一同殿
金五拾錢	水島德太郎殿	金壹百五拾圓	坂本 隆昌殿	金拾圓	樋沼德太郎殿			茨城縣	金拾圓	井野宮 徹殿
金參圓	杉本 熊吉殿	金五拾圓	西谷 光彦殿	金壹百五拾圓	森脇 美樹殿			茨城縣	金參拾圓	武井喜十郎殿
金拾圓	山田重三郎殿	金五拾圓	神田 正靖殿	金壹百圓	竹尾藤之助殿			茨城縣	金拾圓	
金貳百圓	玉井 周吉殿	金壹百圓	小森 寅藏殿	金壹百圓	東畢堂書店殿			茨城縣	金參拾圓	
金貳圓	市川 政雄殿	金壹百圓	富澤 精一殿	金壹百圓	坪内 大造殿			茨城縣	金五拾圓	
金九拾錢	高橋 市郎殿	金壹百圓	戶塚善次郎殿	金六拾圓	石井藤五郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹圓	松川 健吉殿	金參百圓	金井 政弘殿	金壹百圓	大石 理圓殿			茨城縣	金五拾圓	
金五拾圓	藤井鹿二郎殿	金參百圓	野々村戒三殿	金六拾圓	藤本 肅殿			茨城縣	金五拾圓	
金貳圓	鈴木 瀧藏殿	金壹百圓	大關 常盤殿	金六拾圓	武島 賢吉殿			茨城縣	金五拾圓	
金七拾九圓廿錢	倉田銀次郎殿	金壹圓	小暮 新平殿	金七拾圓	宮川 貞二殿			茨城縣	金五拾圓	
金七拾九圓廿錢	難波 權司殿	金參圓	戶塚 要次殿	金五拾圓	山田鏡太郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹萬圓	小池 國三殿	金貳拾五圓	向後文四郎殿	金五拾圓	瀧澤 治次殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹萬圓	和田 豐治殿	金拾圓	永井 誠殿	金五拾圓	村山 實殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹萬五千元	澁澤 榮一殿	金五拾錢	多田 經次殿	金四拾圓	中村忠九郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹百圓	岸畑 久吉殿	金壹圓	青木彦次郎殿	金五拾圓	野瀬 市郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹百五拾圓	伊藤 康安殿	金貳百圓	林 武平殿	金五拾圓	高尾次市右衛門殿			茨城縣	金五拾圓	
金拾圓	高久 熊男殿	金五百圓	三枝 守富殿	金參拾圓	內々崎騰次郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金五百圓	滿田 勝殿	金壹萬圓	服部金太郎殿	金參拾圓	安樂 武雄殿			茨城縣	金五拾圓	
金五百圓	大橋 誠一殿	金拾圓	水村 雅二殿	金參百六拾圓	林 癸未夫殿			茨城縣	金五拾圓	
金五百圓	小山 溫殿	金壹萬圓	村井吉兵衛殿	金五拾圓	中島 啓藏殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹百圓	大隅菊次郎殿	金壹百圓	山崎 康平殿	金貳圓	伊藤吉太郎殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹百圓	高田 勇猛殿	金貳拾圓	吉川 利一殿	金壹圓	生武 健生殿			茨城縣	金五拾圓	
金壹百圓	日高 藤麿殿	金參拾圓	堀口 源吾殿	金五圓	町山宇之助殿			茨城縣	金五拾圓	

金五圓 加藤 慶作殿

金拾圓 大竹宗兵衛殿

金壹圓 高畑 盛男殿

金壹圓 岡崎 谷七殿

金壹圓 山崎 降輔殿

金六圓 佐藤 大三殿

金拾圓 瀬谷伴三郎殿

福島縣

金五拾四圓也

宮城縣

金壹百圓 藤田南九郎殿

金拾五圓 菅野 道助殿

金壹百五圓 内ヶ崎文之助殿

金拾五圓 内ヶ崎りん殿

金九圓 鈴木 政治殿

金六拾圓 佐藤已代吉殿

金六拾圓 阿部貞三郎殿

金五拾壹圓 内ヶ崎俊太郎殿

金參拾圓 内ヶ崎つるよ殿

金拾五圓 内ヶ崎 昇殿

金九圓 高橋 宗吉殿

金拾五圓 北目 菊吉殿

金拾五圓 高平 久吉殿

金拾五圓 内ヶ崎文十郎殿

宮城縣

金六拾四圓也

青森縣

金壹圓 武田 作治殿

青森縣

金壹圓也

秋田縣

金壹百圓 館岡 幹殿

金壹百圓 高久修一郎殿

金五拾錢 高橋 辰男殿

秋田縣

金四百圓五拾錢也

山形縣

金五圓 杉村 助治殿

金壹圓 角田 耕一殿

金壹圓 香西 廣殿

金壹圓 小關 寶益殿

金壹百圓 柏倉喜太郎殿

金壹百圓 柏倉九左衛門殿

金壹百五拾圓 柏倉惣右衛門殿

金壹百圓 柏倉九郎兵衛殿

金壹百圓 佐東善右衛門殿

金五拾圓 西塔長右衛門殿

山形縣

六百拾八圓也

山梨縣

金壹千貳圓也

山梨縣

金壹千貳圓也

山梨縣

金壹圓 櫻井 常吉殿

金五拾錢 牧野 秀男殿

金六拾圓 井上啓一郎殿

山梨縣

壹百六拾壹圓五拾錢也

山梨縣

金貳百圓 寺西 鐵三殿

金五百圓 佐溝明治郎殿

金參百圓 山地寅太郎殿

金貳百圓 大矢 史朗殿

金貳百圓 浦部 章三殿

金壹百五拾圓 大岡 俊殿

金壹百圓 小安 幸殿

金六拾圓 加藤 政敏殿

金六拾圓 大澤 逸策殿

金六拾圓 水野 菊一殿

金六拾圓 綿田 久吾殿

金五拾圓 白石 豐彦殿

金參百圓 高田 逸藏殿

金壹百圓 山内 政市殿

金五拾圓 服部 直吉殿

金貳拾圓 飯田 義一殿

金五圓 中根吉兵衛殿

金五圓 中根 政吉殿

金參圓 杉山 藤一殿

金拾圓 大角俊太郎殿

金貳圓 増田 金作殿

愛知縣

金壹萬五千貳百貳拾圓也

愛知縣

金拾圓也

岐阜縣

金拾圓也

岐阜縣

金壹圓 柴幸 恒殿

金壹圓 阿部 喜一殿

金拾圓 名取 義人殿

長野縣

金參拾貳圓也

長野縣

金五拾圓 清野 與平殿

金參拾六圓 瀧澤 敬也殿

金五拾錢 湧井十四三殿

金五拾錢 伊藤 寛二殿

金五拾圓 清水 脩策殿

金參拾圓 築取 常一殿

金壹百貳拾圓 今川 幸吉殿

金五拾圓 上村 春馬殿

金壹百五拾圓 長谷川 轡殿

金七拾圓 小松原謙三殿

金壹百圓 本間 勇殿

金七拾圓 石澤 正雄殿

金參拾圓 酒井 千尋殿

金九拾圓 味方 利造殿

金五拾圓 須貝 一幹殿

金五拾圓 塚原 徹殿

金壹圓 秋山 良助殿

金壹百圓 川上 一郎殿

金參百圓 川上淳一郎殿

金壹圓 近藤隆太郎殿

金壹百五拾圓 早大新中會殿

金五圓 清水 一己殿

新潟縣

金六千七百參拾九圓也

新潟縣

金五拾錢 谷 淺太郎殿

金壹圓 前田樹五郎殿

金參圓 松田 光彦殿

富山縣

金七拾四圓五拾錢也

富山縣

金壹圓 廣端 辰明殿

金拾圓 小谷 重三殿

金壹圓 谷口 忠弘殿

金壹圓 服部 與一殿

金貳拾圓 二木 三良殿

金參拾圓 坂井 義澄殿

石川縣

金八拾八圓也

石川縣

金壹圓 桑原 榮殿

金五拾錢 芝田竹次郎殿

金壹圓 福井 謙二殿

金參拾圓 岩淵 澄夫殿

金五拾錢 義輪 直繁殿

福井縣

金八拾參圓貳拾錢也

滋賀縣

金壹圓 中村英太郎殿

滋賀縣

金壹圓也

三重縣

金貳拾圓 下村 豐順殿

三重縣

金壹百五拾圓也

和歌山縣

金五拾圓 芳養 武吉殿

和歌山縣

金貳拾圓 清水 德松殿

和歌山縣

金壹百參拾貳圓五拾錢也

奈良縣

金五拾錢 小坂繁次郎殿

奈良縣

金貳圓 庄司 支計殿

奈良縣

金六拾七圓五拾錢也

京都

金七拾錢 八田 莊三殿

金壹圓 中山 藤樹殿

金五拾錢 宮島 久衛殿

金參圓 松井 爲造殿

金壹圓 高橋 政雄殿

金五拾錢 井上 昌一殿

金五圓 佐藤虎之助殿

金五拾錢 藤本 俊一殿

金壹圓 中村 圭三殿

金參圓 江指喜久次殿

金壹百五拾圓	船津 常六殿	熊ノ累計	金參拾圓也	金參圓	中田 芳夫殿	金拾圓	菅野信太郎殿	金拾圓	渡邊 清殿
金六拾圓	山口 尙章殿	北海道	金五圓	二見 七郎殿	海外累計	金壹百參圓也	金六圓	三山 兼滿殿	塚野 至殿
金六拾圓	泉 小次郎殿	金壹圓	西形 荒喜殿	富永 末吉殿	金五圓	笠原 貢殿	金拾五圓	熊田 元治殿	熊田 元治殿
金六拾圓	北島 磯次殿	金壹圓	高島梅太郎殿	森山 兵松殿	金五圓	栗村 榮作殿	金拾五圓	中原 勝熊殿	柏木 良殿
金拾圓	音成 繁雄殿	金壹圓	小野 久雄殿	渡邊莊一郎殿	金參拾圓	小原 新市殿	金拾五圓	千原 文藏殿	兼安 幾二殿
金六拾圓	森 卯一殿	金五十五錢	菅原喜代太郎殿	緒方 次郎殿	金參拾圓	金野 珉殿	金拾五圓	大島 昇殿	松井正太郎殿
金六拾圓	堤 政一殿	北海道累計	金拾圓	座間 寅藏殿	金貳拾圓	西村 壽郎殿	金拾五圓	坂藤 正殿	木村 傳一殿
金四拾圓	江島 竹彦殿	金參百參拾參圓五拾錢也	金拾圓	山田 清殿	金貳拾圓	阿部 謙殿	金拾五圓	荻野 純殿	高橋 繁藏殿
金六拾圓	黒田 龍六殿	臺灣	金拾圓	笠原 實平殿	金拾五圓	大柳 弘殿	金拾五圓	立花 文七殿	長井司馬太郎殿
金六拾圓	久和原源市殿	金六拾圓	金拾圓	宮島 慶治殿	金拾圓	久良木綿吉殿	金拾五圓	鳥海助次郎殿	遊佐 春治殿
金六拾圓	中島 令次殿	金拾圓	金拾圓	白鳥 大藏殿	金拾圓	齊藤 賢策殿	金拾五圓	山本 嚴殿	大平 豐殿
金六拾圓	筒井 壽太殿	金拾圓	金拾圓	片岡 繁二殿	金拾圓	佐藤 助藏殿	金拾圓	立石 定次殿	高 儀三郎殿
金五拾圓	古川 碌郎殿	金五拾錢	金拾圓	小高 衛殿	金拾圓	村上 春吉殿	金拾八圓	島田 國藏殿	手塚康次郎殿
金五拾圓	古賀 權六殿	金參拾圓	金拾圓	林 榮吉殿	金拾圓	八須 定吉殿	金拾五圓	小谷 鍊治殿	島田 勝己殿
金壹百五拾圓	加藤 貞治殿	臺灣累計	金拾圓	平本市太郎殿	金拾圓	蒲原 勇殿	金拾五圓	鹽海 新吉殿	中村喜代太郎殿
金六拾圓	永富 貞平殿	金貳百六拾圓五拾錢也	金拾圓	渡邊 新吉殿	金拾圓	比佐 直永殿	金拾圓	高木彌三郎殿	沓澤武三郎殿
金拾圓	石橋 勝己殿	朝鮮	金七圓	村井 利一殿	金拾五圓	佐藤 勝殿	金拾圓	山本 虎一殿	篠尾 敏明殿
金拾圓	大島 竹治殿	金壹圓	金七圓	大河原義武殿	金拾五圓	厚母 義夫殿	金拾圓	杉本 次一殿	
金拾五圓也	岸田 永英殿	朝鮮累計	金六圓	三村 近義殿	金拾五圓	勝田 治一殿	金拾圓		
金參拾圓	栗山資四郎殿	青島	金六圓	島村 高正殿	金拾五圓	勝股 義明殿	金拾圓		
金參拾圓	林 貢殿	青島累計	金五圓	井橋 民藏殿	金拾圓	水谷 清一殿	金拾圓		
金五百圓	八坂 甚二殿	滿洲	金五圓	池田 登殿	金拾圓	野田井之助殿	金拾圓		
金參百圓	松田 麒造殿	金參圓	金五圓	有田 孝之殿	金拾圓	公平 雄助殿	金拾圓		
佐賀累計	金貳千貳拾五圓也	滿洲累計	金五圓	小林 恒治殿	金拾圓	大和田金太郎殿	金拾圓		
鹿兒島縣	金四圓也	支那	金五圓	金井 誠一殿	金拾圓	片山 健一殿	金拾圓		
鹿兒島累計	金四圓也	支那累計	金五圓	穴澤 武久殿	金拾圓	岡山周一郎殿	金拾圓		
大分縣	佐々木一實殿	海外	金五圓	大熊榮太郎殿	金拾圓	矢田 進殿	金拾圓		
大分累計	金拾壹圓也	米國オレゴン州	金五圓	松田 春次殿	金拾圓	土井 一郎殿	金拾圓		
熊本縣			金五圓	水村 時次殿	金拾圓	關野 明殿	金拾圓		

金拾貳圓	清水 一郎殿	金拾五圓	橫塚 峯松殿
金拾貳圓	森 三郎殿	金拾六圓	櫻内徳次郎殿
金拾貳圓	高橋 健壽殿	金拾五圓	高橋 庄吉殿
金拾貳圓	片山 武雄殿	金拾五圓	五十嵐 進殿
金拾貳圓	安河内吉郎殿	金拾八圓	齋野 薫平殿
金拾貳圓	山田 武康殿	金拾五圓	洪 元殿
金拾貳圓	太田 強殿	金拾八圓	大桃 久治殿
金拾五圓	川原田忠敬殿	金拾圓	間 義夫殿
金拾五圓	中崎六三郎殿	金五圓	若林 鍊三殿
金拾五圓	小松一二三殿	金五圓	中村 一殿
金拾五圓	千葉 美雄殿	金六圓	田口 正一殿
金拾五圓	藤山萬之助殿	金拾五圓	清水 美雄殿
金拾五圓	關村 新造殿	金拾圓	橋本 庄八殿
金拾八圓	柏木 昇殿	金拾圓	野田 直吉殿
金拾貳圓	本目 勝殿	金七圓	渡邊 清吉殿
金拾貳圓	大平 二郎殿	金拾五圓	武藤 伊作殿
金貳拾圓	小成善太郎殿	金貳拾圓	村松 好一殿
金貳拾圓	山本清衛門殿	金拾圓	藤島加茂一殿
金拾五圓	野澤 富治殿	金拾圓	鈴木太太郎殿
金拾五圓	坂本喜八郎殿	金拾五圓	若山 春滋殿
金拾五圓	合持 精司殿	金七圓	江口梅三郎殿
金拾圓	池戸 庄一殿	金五圓	北條 光二殿
金拾圓	森 松三郎殿	金拾五圓	安藤 源八殿
金拾八圓	久保本平造殿	金六圓	坂田 春彦殿
金拾五圓	高橋 常次殿	金五圓	山本 雄一殿
金拾五圓	白井 晃殿	金貳拾圓	星野 清殿
金拾貳圓	間中 茂殿	金拾五圓	津村 昇殿
金拾貳圓	寺本喜次郎殿	金拾圓	宮尾 健士殿
金拾圓	江原 寅雄殿	金拾五圓	寺田 榮殿
金拾貳圓	小島 貞司殿	金拾五圓	中島 遊龜殿
金拾圓	田麥 傳殿	金拾貳圓	長畑 直二殿
金拾五圓	津田 猛男殿	金拾五圓	加來 壽市殿
金拾圓	松永 宗一殿	金拾五圓	田淵 清次殿

金拾貳圓	櫻内徳次郎殿	金拾貳圓	山本連兵衛殿
金拾五圓	高橋 庄吉殿	金拾五圓	五十嵐 進殿
金拾五圓	齋野 薫平殿	金拾八圓	洪 元殿
金拾五圓	大桃 久治殿	金拾圓	間 義夫殿
金五圓	若林 鍊三殿	金五圓	中村 一殿
金六圓	田口 正一殿	金拾五圓	清水 美雄殿
金拾五圓	橋本 庄八殿	金拾圓	野田 直吉殿
金七圓	渡邊 清吉殿	金拾五圓	武藤 伊作殿
金貳拾圓	村松 好一殿	金拾圓	藤島加茂一殿
金拾圓	鈴木太太郎殿	金拾五圓	若山 春滋殿
金七圓	江口梅三郎殿	金五圓	北條 光二殿
金五圓	安藤 源八殿	金六圓	坂田 春彦殿
金拾五圓	山本 雄一殿	金貳拾圓	星野 清殿
金拾圓	津村 昇殿	金拾圓	宮尾 健士殿
金拾五圓	寺田 榮殿	金拾五圓	中島 遊龜殿
金拾貳圓	長畑 直二殿	金拾五圓	加來 壽市殿
金拾圓	田淵 清次殿		

金拾圓	篠原規矩雄殿
金拾貳圓	山本連兵衛殿
金壹千九百七拾六圓也	
總累計	
大正十一年 度(第一次)	本會維持費釀出者氏名報告
金參圓也	
重信雄三郎氏	川瀬 四郎氏
野口藏之助氏	佐々木常記氏
鶴岡 重光氏	酒卷 景氏
比佐 昌平氏	坂本 信道氏
西本 正雄氏	蓬萊宇兵衛氏
一圓 五郎氏	生和 光藏氏
蓬萊舜一郎氏	川上 英男氏
佐藤 七郎氏	高井 愛次氏
鈴木 歳氏	田原 正氣氏
菊部龍太郎氏	五月女久五氏
山本 通三氏	島村 精一氏
新庄 健氏	堀田 久義氏
片岡 恒一氏	永瀧延太郎氏
伊藤八太郎氏	尾崎彌右衛門
富田亥之七氏	館 孝六氏
小田部藤一郎氏	佐伯 仲藏氏
堀 林之助氏	塚本龍次郎氏
金澤積次郎氏	山田龜右衛門氏
村松 藤太氏	坂口 武市氏
渡邊 憲氏	木内水太郎氏
村田 正雄氏	清水 定勝氏

金參拾九萬貳千七百六十八圓九十五錢也	
正誤(臨時號中)	
朝鮮 金五圓	佐竹龜殿ハ金拾五圓ノ誤リ
西村 間道氏	佐野 敬吉氏
春日部誠月氏	幡谷 正雄氏
足立 瑞寶氏	榛葉 嘉作氏
橋田東次郎氏	多 達夫氏
小西友次郎氏	勅使河原彦十郎氏
佐藤德三郎氏	澤本 定治氏
味方 利造氏	下山 義一氏
豐野 董輔氏	岡田 亥三氏
鹽谷健次郎氏	菅沼 三彦氏
今川 幸吉氏	太田 茂雄氏
渡邊 嘉一氏	吉田 昱吉氏
染谷 忠助氏	栗本 吉松氏
鈴木 武雄氏	伊藤 廣光氏
石田常太郎氏	星谷 佳雄氏
橫田 秀隆氏	高見與一郎氏
曲山 公平氏	小島 保吉氏
安倍 邦吉氏	佐藤 彌造氏
喜多 俊一氏	清水 清氏
白石 倉氏	元松 昇藏氏
大島理太郎氏	高橋 治吉氏
小坂橋四郎氏	窪川 直三氏

栗原 靜造氏	柳田 年一氏
近藤 正藏氏	南 守一氏
須賀房次郎氏	原勢 抑三氏
西澤 賢吾氏	本田 伊平氏
本多 廣一氏	河原幾次郎氏
武林 專一氏	齋澤龍太郎氏
增尾 勝三氏	小山 善氏
朝重 週一氏	下宮 六郎氏
泉 直吉氏	鈴木 篤治氏
稻津 秀光氏	板野 利二氏
石川 成憲氏	石ヶ森勝哉氏
長谷川謙六氏	小田切金治氏
日理 宗一氏	山本 且氏
齋藤政次郎氏	木村友之助氏
市川源次郎氏	原田 友厚氏
丹羽 正一氏	岡本 順一氏
田中 道夫氏	長安 正大氏
小泉 邦治氏	朝倉好三郎氏
岩波 春海氏	飯村 俊雄氏
三月十一日	
松村育太郎氏	吉原 萬藏氏
永野 靜夫氏	益谷貞次郎氏
藤代吉太郎氏	坂田 弟吉氏
齊藤 久吉氏	柄澤 政雄氏
高下 才介氏	小池甚一郎氏
村田 奈雄氏	安藤雄四郎氏
永江 漢雄氏	栗林 宗參氏
木津 群平氏	佐藤猪三郎氏
緒方竹下居氏	川上卯七郎氏
伊賀嘉三郎氏	宇野清一郎氏
廣瀬 秀圓氏	山田金次郎氏
松井 通氏	里 兵衛門氏
二見 七郎氏	長井 義治氏
前田孫兵衛氏	衣川 退藏氏
吉村四方海氏	成瀬 清氏
樽本 翼氏	望月 重雄氏

三苦 潔氏 森本 宋氏
大盤 誠三氏 磯前參次郎氏
渡邊 有仁氏 水川 靜一氏
藤藤藏次郎氏 伊藤兵次郎氏
友末 益真氏 柱 三代治氏
掛田 郁郎氏 中村 祥作氏
佐々木修一郎氏 黒田 爲雄氏
石田 眞一氏 岸本 丑松氏
松村 勝利氏 三上 四郎氏
上村安太郎氏 佐藤 顯三氏
金尾慎太郎氏 大内源一郎氏
吉成 竹治氏 今泉 丈吉氏
山田 正世氏 伊藤 祐倫氏
船津 輪助氏 落合 兼光氏
尾原 始氏 林 隆興氏
大西 顯純氏 渡邊 昂氏
板坂 三郎氏 大野 退藏氏
土肥 政勝氏 大野木繁太郎氏
高梨 正二氏 丸地 倫二氏
松田治一郎氏 増田仁三郎氏
茅原退二郎氏 小能 六郎氏
小笠原 赴氏 金木 博治氏
松井 益雄氏 廣石弘三郎氏
石村 一男氏 番場 健一氏
渡邊 隆治氏 古川 壽夫氏
猪瀬 誠意氏 石川 虎三氏
伴 真太郎氏 本岡 勇氏
川上 正喜氏 門田 康記氏
高橋 茂雄氏 松岡誠一郎氏
杉本 昇氏 入佐 龍丸氏
早川 欽介氏 堀田 詰吉氏
大泉宗七郎氏 田中藤六郎氏
高塚謹四郎氏 兵頭 直明氏
五十嵐建吉氏 飯島 英二氏
服部 盛氏 西尾 謙吉氏
西本 竹吉氏 月日 彌一郎氏

東田 四郎氏 高木要之助氏
山本 平吉氏 小崎 文治氏
因武 輪一氏 河野 惠一氏
淺野富太郎氏 櫻井 省三氏
北脇 祥氏 北村 正俊氏
水谷房治郎氏 白石 徹夫氏
島田 豐松氏 稻生龜之助氏
石田 重利氏 岩瀬 純一氏
西 守氏 門垣勲次郎氏
本間 信吉氏 堀尾乃武夫氏
小倉 晴氏 大略 漢氏
風間徳太郎氏 蒲原 賢次氏
米澤徳次郎氏 田中 忠治氏
矢吹 悌悟氏 山地 調氏
青木 玉次氏 林 末三郎氏
西 彦逸氏 谷 哲二氏
谷 俊男氏 岡崎 守藏氏
京坂 重雄氏 種田 政徳氏
室津 市郎氏 向井竹次郎氏
山岡 憲定氏 増田稻三郎氏
小峰 徳治氏 後藤 房吉氏
近藤 幸三氏 寺本喜一郎氏
佐野 料平氏 北川 原秘氏
宮川 賢造氏 新宮弘民氏
飯田 敏夫氏 公尾千太夫氏
木村 虎雄氏 相原 信吉氏
森川 太吉氏 石川辰次郎氏
初谷嘉一郎氏 大石 敏一氏
高橋 愛作氏 高村 光次氏
橋 倫一氏 武本 康一氏
中野千太郎氏 松岡 益雄氏
佐藤 邦藏氏 木村 福藏氏
北島 正治氏 重岡 忠三氏
諸井 光政氏 住田竜太郎氏
和田忠一郎氏 香川 幸三氏
柿沼 榮雄氏 谷口勲次郎氏

三月十三日

高貴卯三郎氏 福田 由治氏
小林 喜一氏 岩佐 善一氏
服部 信一氏 田中 清治氏
名越 政義氏 増田 鑑義氏
内藤 安成氏 山田 保氏
山田俊太郎氏 福井三郎兵衛氏
小岩井貞夫氏 淺川 和男氏
櫻井 辰治氏 菊地 松壽氏
日比 得三氏 川福 豐藏氏
井口謹一郎氏 井關喜一郎氏
池田 竜介氏 谷口 清次氏
高濱 完治氏
村上 延太郎氏 山口 千夫氏
宮澤 實周氏 馬場長一郎氏
久木 田司氏 春成 香蓮氏
有馬雄太郎氏 青柳徳太郎氏
早川 富平氏 山崎豐太郎氏
佐藤 理吉氏 武部 再之氏
松尾 四郎氏 江崎 傳藏氏
安齊 憲助氏 丁 鑑修氏
小笠原周三氏 大久保助一郎氏
大森 時藏氏 内山 克己氏
山口馬城次氏 馬場 津郎氏
朝賀 忠勝氏 村岡 猛二氏
藤澤孝太郎氏 朝倉 博氏
鄭金 鉉氏 久野 三止氏
宮島 博氏 野澤 忠一氏
熊本 道夫氏 平田里五郎氏
井土 敏慈氏 新嘉喜倫篤氏
野崎 建之氏 戸倉 誠司氏
堀惠作五郎氏 中新井 健氏
千々崎嘉助氏 本間 直氏
菅野久九郎氏 野口 寛氏
唐楠 昱太氏 林 靜夫氏
伊藤齊太郎氏 和田悌四郎氏

小野 啓二氏 小原 直治氏
白須 宗吉氏 鈴木吉兵衛氏
佐々山雅一氏 松井 榮雄氏
難波 虎雄氏 齋藤 清次氏
深井 貞亮氏 太田 助三氏
德 廣萬氏 平野 耀道氏
川瀬 義雄氏 兒島 純雄氏
猪瀬 順氏 小山鬼子三氏
林 清吉氏 速水續次郎氏
片島 幸吉氏 古田傳二郎氏
荒木 智雄氏 武井喜十郎氏
佐羽尾伊佐美氏 黒田 芳泉氏
須賀 隆賢氏 佐々木 順氏
竹内 秀雄氏 永田久右衛門氏
榊井孝四郎氏 秋本 宇平氏
佐治 正嗣氏 松村規知雄氏
河野 八郎氏 塚本 威氏
川崎 宗義氏 西村 忠一氏
山内 政市氏 小松 贊助氏
鹽田 敬吉氏 石田 武氏
川瀬 傳藏氏 安西於亮彦氏
波多野林一氏 太田 茂雄氏
吉村 禎三氏 稱田徳太郎氏
竹村 米吉氏 山田 俊雄氏
工藤 郷輔氏 岸 益衛氏
金子吉之助氏 川竹 成一氏
横山啓次郎氏 田中 富之氏
山田 眞恭氏 草刈 健藏氏
岡領 榮一氏 井上賢太郎氏
市橋 齊氏 大宮 正雄氏
綿貫 和夫氏 川野 義正氏
武井 正房氏 平瀬 信吉氏
二本 貞利氏 永見恭四郎氏
野田英三郎氏 久貝 弘勝氏
山本 爲治氏 工藤勝太郎氏
井田 寅治氏 柳木 壽氏

三月十四日

柳木 嘉郎氏 大矢 史明氏
川原 光次氏 横山 勝男氏
内田 綱八氏 久佐賀義直氏
松榮 俊三氏 服部 末男氏
加藤 方吉氏 笠島友次郎氏
須田 武雄氏 山本己三治氏
三谷長太郎氏 水野 房二氏
石川 秀浪氏 西本 一郎氏
稻本元三郎氏 加藤 寧治氏
梅村 由藏氏 佐々木修三郎氏
櫻井彌太郎氏 稻松喜一郎氏
林田顯之輔氏 法貴 宗一氏
高村 勇吉氏 田中仙之助氏
土屋 正氏 宇式 本吉氏
野村 由巳氏 山崎 昌平氏
板垣 竜亮氏
伊藤 市平氏 奥谷宇之助氏
淺野米三郎氏 高谷 祐次氏
關口直太郎氏 平野 平助氏
並河 正氏 大石菊次郎氏
伴 謙一氏 青柳長次郎氏
遠山 一尾氏 宮坂 邦彦氏
金子 智氏 龜井 齊平氏
佐藤 祐松氏 等々力正保氏
池田作四郎氏 櫻井 好雄氏
樋口義一郎氏 鈴木嘉十郎氏
原木吉太郎氏 山崎 清三氏
三月 春造氏 今村雄久馬氏
山田莊右衛門氏 島内 植貴氏
岩永 藤樹氏 小貫 太郎氏
田中 喜三氏 福岡 正氏
吉田 知三氏 小西芳太郎氏
出野 信慶氏 伊藤五郎右衛門氏
岩本 筆藏氏 爪生 卓爾氏
矢島 貞雄氏 西本 鐵馬氏

齊藤 正司氏 廣田 傳一氏
星野 剛男氏 吉田末和一氏
立川 秀司氏 廣田傳右衛門氏
石原徑太郎氏 富永 養爾氏
中村 甚一氏 阿部章一郎氏
辨宮 爲秀氏 橫 卯太郎氏
赤尾 英治氏 板垣 明氏
石橋 保氏 新井 源亮氏
小野 甫善氏 神田 五雄氏
武內 淺彌氏 辻之上計三氏
小山晴一郎氏 飯塚 彌平氏
中村 實氏 熊已 義廣氏
菊地恒八郎氏 井上 豐之氏
長濱信太郎氏 竹平 治作氏
北田 寬氏 西尾 茂重氏
小林 博氏 大島 成一氏
山田 環郎氏 藤澤鹿太郎氏
三好 正雄氏 宮崎宗二郎氏
森安 雅由氏 椎名 隆氏
關口 安一氏 小野 芳彦氏
篠崎 孫平氏 門井 東一氏
春日井鳳藏氏 杉山保三郎氏
赤塚 善助氏 幸澤 萬三氏
廣江富四郎氏 鴨井 雅治氏
岸 節造氏 川村 浩氏
伊藤寅治郎氏 菊地仙之助氏
山口市之助氏 高野 幸雄氏
中村 金次氏 小原 玄之氏
村上 正吉氏 早川 友二氏
秦 英吉氏 中田彌兵衛氏
五十嵐三郎氏 花山不二郎氏
小泉 一助氏 石川九後太郎氏
內田賢之助氏 牧野 成一氏
安藤 登氏 濱田 佳澄氏
岡本 慧航氏 赤津 正親氏
東角井備臣氏 時山 男氏

雨宮 敬作氏 沖津 大象氏
土屋 操氏 內山 義政氏
若見 信雄氏 八木淳一郎氏
長谷部隆雄氏 河合文太郎氏
神門兵右衛門氏 山田 直氏
增淵 淳氏 森脇 毅氏
井上定次郎氏 室谷 祐善氏
伊藤喜代治氏 上領 一郎氏
永元 政之氏 山本 四男氏
近松 尊了氏 高田太一郎氏
土屋 充氏 本郷 素行氏
岡 健氏 淺岡 齊氏
大江 善三氏 岩切 縣氏
藤得 東作氏 森村 毅氏
田中 清太氏 柏木 千秋氏
田口 定男氏 辻村 誠之氏
成田謙 郎氏 內田卓一郎氏
三川 信矢氏 柴 長衛氏
生駒吉之助氏 友杉清壽郎氏
加藤 龍氏 竹内 行男氏
江津 欽司氏 佐々木文田氏
井手 德一氏 田中 敬吉氏
大森 忠彦氏 高島 徹氏
朝日 三郎氏 細田 善介氏
戸坂 隆吉氏 友野祐三郎氏
小寺 順吉氏 大村 清氏
吉中 永建氏 玉木 源七氏
武彌 三吉氏 堤 庄三氏
松平 英氏 松野 竹吉氏
秋野 敬治氏 佐藤千吉郎氏
皆川 重義氏 平澤 最勝氏
飯沼 明氏 石川 盛氏
尾崎 雅次氏 大濱 倬氏
大島喜代治氏 和田喜太郎氏
渡邊 實治氏 加來淡二郎氏
山崎文五郎氏 小原 純一氏

足立 清邊氏 宮下 實三氏
早川 若三氏 豐田 武安氏
山口 精一氏 山谷 盛康氏
小柳 寛治氏 遠藤 隆春氏
島田 隆次氏 八子 正敬氏
小野善五郎氏 大政 正雄氏
野田 惣八氏 山田 峰藏氏
兒島 御造氏 坂本 武彦氏
森永 彦二氏 土井 哲夫氏
橋谷 德治氏 岡 治逸氏
網島 寅吉氏 三谷 清一氏
渡邊 信夫氏 村上 幹二氏
野田 勝義氏 野村正一郎氏
今井 五六氏 石井 淺吉氏
折戸芳太郎氏 南方淳次郎氏
南木 溫氏 岩井 賢造氏
西尾 四郎氏 金子 悅郎氏
吉見勢之助氏 中山 榮一氏
島勇三郎氏 山本松太郎氏

三月十五日

太田宇之助氏 玉田新太郎氏
淺川 湖郎氏 新井 湖郎氏
新井 章治氏 堀川半三郎氏
八木 香苗氏 安威豐三郎氏
赤堀 吉氏 小竹 正氏
古田島和太郎氏 稻田 直道氏
大木 尙夫氏 龜山 貞一氏
淺本 德三氏 上田 榮明氏
有近 與隆氏 橫田愛三郎氏
土田 潤氏 稻垣 太郎氏
久野 園吉氏 上田 夏一氏
遊谷谷三郎氏 樋口彌太郎氏
根本 秀彌氏 矢口 武氏
椎名儀一郎氏 谷田俊二郎氏
高根澤重重氏 福井 支郎氏
高野慶次郎氏 中村富三郎氏
四村 三作氏 谷澤 福助氏
小村雄乃慶氏 生方 正氏
中村邦之助氏 高柳祐五郎氏
野瀨市大郎氏 櫻内 隆藏氏
片山 英作氏 實松 竹二氏
丸田 可平氏 木野 正俊氏
藤森源之助氏 渡邊 周助氏
塚原 喜秀氏 十川兵三郎氏
青木 重嗣氏 市原 清二氏
館岡誠大郎氏 打田 耕一氏
重光三代大郎氏 松岡 進氏
石橋賴次郎氏 吉崎宇右衛門氏
小林 光次氏 松尾 光次氏
松岡 進氏 石橋賴次郎氏
後藤 正司氏 小林 光次氏
松尾 章男氏 新宮 武二氏
竹村 尙武氏 手塚 法慶氏
宇津木端太郎氏 正木 新氏
西村豐三郎氏 清水 勝一氏
田村信一郎氏 都賀儀兵已氏

兼坂 常氏 奥 秀太郎氏
伊達 俊光氏 丸寶 真行氏
岩永 武道氏 渡邊 知宮氏
一色 順雄氏 西本 正美氏
高橋 正雄氏 和田富治郎氏
尾原 雄飛氏 坪内 士行氏
能登 博氏 佐藤 一夫氏
根本耕太郎氏 山口 竜公氏
古川 隼人氏 安藤 正雄氏
湯淺 俊雄氏 中島 定郎氏
梅村 藤吉氏 御牧 清勤氏
井狩 重之氏 萩原 庫吉氏
谷口 恒隆氏 大久保德一氏
村山 勇三氏 江上 秀靜氏
長柄 行全氏 野口源之助氏
相原 藤枝氏 青澤正太郎氏
山住 斗善氏 志野 豐氏
李 丙熱氏 高坂 稔積氏
高木光三郎氏 上田 晴雄氏
山口 堅吉氏 高橋 荒助氏
小倉 房藏氏 丸茂 忠郎氏
青木 郁三氏 廣瀬 博氏
三好 直英氏 石井保三郎氏

大正十一年八月十日印刷
大正十一年八月十日發行
東京市牛込區白銀町二十九番地
三十五號
編輯兼發行人 前田 多藏
東京市牛込區榎町七番地
印刷者 渡邊八太郎
東京市牛込區榎町七番地
印刷所 日清印刷株式會社
府下豐多摩郡戸塚町字下戸塚六
百四十七番地
早稻田大學
發行所 早稻田大學校友會

特許局審査官 藤井隣次 著

電燈及照明

總クローヌ
菊判三百頁
挿圖多數
定價參圓五拾錢
郵稅十八錢

本書は電燈の原理、構造及び照明を最も平易に説明したものである。著者は數年間工手學校に於て此講義をした経験によつて本書を著したもので、此種學生の教科書又は參考書として極めて適當であるは勿論、又電氣主任技術者試験を受ける人には絶好の參考書となる。如何なる所に如何なる電燈が最も適當するか、又如何にせば夜の照明を最も心地よくなし得るかは何人にも問題となるのであるが、本書を一讀すれば解決せられるのである。本書の特色を擧ぐれば、

- ▼工手學校の教科書に適當する。
- ▼例題を加へて生徒の自習に便ならしめた。
- ▼特に必要な點は教科書以上に詳細に説明してあるから參考書にも適する。
- ▼調和せる電燈及び心地よき照明を要求する一般人士にも解し易い。
- ▼特許權との關係を明かにした。

工業叢書

東京高工教授 關口八重吉 共著
特許局審査官 高島宗三 共著

蒸氣原動機

定價六圓
郵稅十八錢

東京高工教授 齋藤俊吉 共著
東京高工教授 大住吾八 共著

綿紡織

定價四圓五拾錢
郵稅十八錢

東京高工教授 正田桂太郎 共著
横濱高工教授 堀江不器雄 共著

油脂工業

定價四圓五拾錢
郵稅十八錢

早稲田大學教授 內藤多仲 著

建築構造學

定價四圓貳拾錢
郵稅十八錢

特許局審査官 米田英夫 共著
特許局審査官 高島宗三 共著

特許のかぎ

定價壹圓八拾錢
郵稅八錢

東京 牛込 早稲田大學出版部 東京 堂隆 北館 隆野 堂誠 至館 盛文 堂海 東野 振替 東京 一三二 三